

令和4年度
交通安全指導者養成講座運営支援業務
事業報告書

令和5年3月

内閣府政策統括官(政策調整担当)

目次

1. 講座概要	1
2. 日程表	3
3. 講義概要	6
●開講式・主催者挨拶	6
西村 真弓 (内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐)	
●講義「交通安全指導における効果的な話し方」	8
藤原 徳子(株式会社ビジネスファーム 代表取締役)	
●講義「交通事故被害者支援について」	14
中土 美砂(公益社団法人被害者支援都民センター)	
●講義「交通安全教育デモンストレーション」	20
警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係	
●講義「子供の交通安全教育について ～幼児・学童の発達と交通安全学習～」	21
山口 直範(大阪国際大学 人間科学部人間健康科学科 教授)	
●講義「いきいき運転講座」	28
池田 佳代(株式会社コンセプト 代表取締役)	
●グループ討議結果発表	33
●講義「自転車の安全利用のために」	46
彦坂 誠(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 次長)	
●閉講式・主催者挨拶	50
西村 真弓 (内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐)	
4. アンケート集計結果	51

1. 講座概要

◆目的

本事業は、地域住民の交通安全意識の向上、交通安全思想の普及・浸透及び交通事故防止のための街頭活動、交通安全教育等を行っている交通指導員(シルバーリーダーを含む。)及びこれら交通指導員を指導育成する立場にある者に対し、交通安全教育に関する基礎的理論及びその実践的手法に関する知識・技能を習得させ、指導的役割を担う者を養成することにより、その効果的な活動を促進し、安全で快適な交通社会を実現することを目的として実施する。

◆期間：令和4年12月5日(月)～7日(水)

◆会場

アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段北 4-2-25)

《アクセス》

- ・JR 中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅
- ・地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(1 または A1 出口)
- ・地下鉄新宿線 市ヶ谷駅(A1 または A4 出口)

◆受講者

【交通指導員】

都道府県又は市区町村の長等から委嘱を受け、交通安全を目的として街頭活動、交通安全教育、広報啓発活動に従事している交通ボランティア等(高齢者交通ボランティアであるシルバーリーダーを含む。)

【交通指導員を指導育成する立場にある者】

交通指導員の指導者及び都道府県又は市区町村の交通安全対策主管課の職員

◆受講者数：80名

◆配布資料

No	資料名	使用日
1	講座のしおり	全日
2	Zoom使用マニュアル	全日
3	配付資料(ホチキス止め冊子、リーフレット類)	全日
4	交通安全指導者養成講座アンケート用紙(兼、講師への質問用紙)	全日
5	「いきいき運転講座」アンケート用紙	2日目
6	グループ討議参考資料	2・3日目
6-1	①メモ用紙(1頁)	
6-2	②討議結果記入用紙(1頁)	

2. 日程表

【1日目／12月5日(月)】

時間	プログラム
12:30～13:00	受付
13:00～13:10	オリエンテーション
13:10～13:20	開講式・主催者挨拶 内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐 西村真弓
13:20～15:10	講義①「交通安全指導における効果的な話し方」 株式会社ビジネスファーム 代表取締役 藤原徳子
15:10～15:20	休憩
15:20～16:10	講義②「交通事故被害者支援について」 公益社団法人被害者支援都民センター 中土美砂
16:10～17:00	グループ討議準備・確認
17:00	解散

【2日目／12月6日(火)】

時間	プログラム
08:50～09:20	受付
09:20～11:20	グループ討議
11:20～11:40	討議結果とりまとめ
11:40～12:40	昼休み・休憩
12:40～13:40	講義③「交通安全教育デモンストレーション」 警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係
13:40～13:50	休憩
13:50～15:00	講義④「子供の交通安全教育について ～幼児・学童の発達と交通安全学習～」 大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 教授 山口直範
15:00～15:10	休憩
15:10～17:00	講義⑤「いきいき運転講座」 株式会社コンセプト 代表取締役 池田佳代
17:00	解散

【3日目／12月7日(水)】

時間	プログラム
08:50～09:20	受付
09:20～10:30	グループ討議結果発表
10:30～10:40	休憩
10:40～11:50	講義⑥「自転車の安全利用のために」 一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 次長 彦坂誠
11:50～12:00	閉講式・主催者挨拶、事務連絡 内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐 西村真弓
12:00	解散

3. 講義概要

●開講式・主催者挨拶／12月5日(月)13:10～13:20

西村 真弓

(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付 交通安全啓発担当 参事官補佐)

ただいま御紹介いただきました、内閣府交通安全啓発担当の西村と申します。「令和4年度交通安全指導者養成講座」の開講に当たり、一言御挨拶申し上げます。

受講者の皆様には、お忙しい中、御参加いただき誠にありがとうございます。また、平素から交通安全対策に深い御理解と多大なる御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。本日から3日間にわたり開催します本講座は、日頃交通事故防止のための街頭活動や交通安全教育に従事されている方、また、これらの分野において指導的立場にいらっしゃる方を対象に、内閣府の事業として毎年実施しているものです。例年であれば、受講者の皆様に会場にお越しいただき、対面で実施しておりましたところ、昨年度に引き続き、今年度もオンライン配信により開講することになりましたこと、何卒ご理解いただければと思っております。

さて、昨年中の交通事故情勢は、皆様方の御協力と御尽力の下、各種交通安全対策を推進した結果、24時間以内の交通事故死者数は全国で2,636人と、過去最少であった前年を更に下回りました。また、本年11月末現在の死者数は、2,330人で昨年より22人減少となっております。これは、皆様方の日々の献身的な街頭活動や地道な啓発活動の賜物であり、その御尽力に対しまして、重ねて御礼を申し上げます。

しかしながら、減少しているとはいえ、今もなお多くの尊い命が交通事故により失われていることに変わりはなく、加えて新型コロナウイルス感染症により国民の交通行動や道路環境が変容し、皆様方のご活動にも少なからず影響を及ぼしているものと思われま。交通事故のため悲しくつらい思いをする方を一人でも減らせるよう、国をあげて取り組むべき重要な課題として、歩行者の安全の確保や、自転車の安全利用など、様々な交通安全対策を講じているところでありますが、交通安全意識の普及・浸透には、地域の交通安全にご活躍している皆様の役割はかせないものとなります。

交通安全教育というものは、生涯教育であるとも言われており、幼児から高齢者に至るまで、年齢層や運転状況に応じた内容やアプローチにより行うことが大切となります。本講座は、子供や自転車の交通安全に関する講義やデモンストレーション、演習など、交通安全指導における基礎的理論から応用スキル、実践的手法まで幅広く身に付けていただくようプログラムを組んでおります。受講者の皆様には、日頃の活動で感じている課題や疑問もあるかと思ひます。ぜひ、一つでも多くのことを吸収され、今後の交通安全

活動に活かすべく、本講座に臨んでいただきたいと思っております。また、テーマ別のグループ討議などでは、オンラインを通じてとなりますが、活発なディスカッション、横のネットワークの構築にも努めていただければと思います。

最後になりましたが、皆様方が、この3日間の講座で所期の成果を挙げられ、有意義なものとなりますことを祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。3日間どうぞよろしくお願いいたします。

●講義「交通安全指導における効果的な話し方」/12月5日(月)13:20～15:10
藤原 徳子（株式会社ビジネスファーム 代表取締役）



配付資料:「交通安全指導における効果的な話し方」

はじめに…

なぜ、交通安全指導者に効果的な話し方のスキルが必要なのか。

⇒道路交通法の知識や情報をもっていたとしても、それらを講習会に参加する受講者に伝える術がなければ、受講者の行動変容に影響を与えることができない。行動変容につながる影響力を持つためには、効果的な話し方のスキルを持つ必要がある。

オリエンテーション【交通安全指導者の使命】

1. 交通安全指導者は「規範を守る道徳的な人間としてのお手本」

(1)交通安全指導の「目的」

尊い命を守り、常に安心安全な街づくり

(2)交通安全指導の「目標」

- ・交通ルール、マナーを守る態度を育成する
- ・安全に道路を通行するための知識、技術、技能を身につける

2. 交通安全指導を通じて、地域住民の倫理観を高める

「倫理観の高い人は交通ルールを守る」

⇒人間としての「損得」の教育をするのではなく、人としての「善悪」の指導を心がけてほしい。

3. 交通安全指導を行う上での心構え

(1) 聴いてもらうという姿勢が大切

(2) 自分の話し方スキルを磨くこと

(3) 話し方の3原則(明朗・正確・肯定表現)を守る

(4) 目的と目標を達成するために、熱意を持ち、「自信」ある態度で指導にあたる

(5) 交通安全指導者の「タスク(課題・業務)」を理解する

※タスクが分かれば教育技法と指導技術の選択・決定ができる。

※講習のゴールを明確にした上で準備をする。

【参考】自信をつけるためには

「タスクを自力で完遂するためには、『能力』と『意欲』が必要」

- ・「能力」は「知識・経験・技能」、「意欲」は「自信・関心・動機の強さ」と定義している
- ・「意欲」は自信によって喚起される

①知識・技能・経験を積むこと

②難易度が低い、分量が少ないタスクでも、自力で完成・完遂させること

(人の手を借りて完成・完遂したものに真の「自信」はつかない。)

【効果的に話すための準備】

1. 心温まる笑顔で「相手の心に残る指導」を！

- ・上段は、口角が上がっている、「笑顔」の状態

※マスク着用時でも、口角を上げることで笑顔を伝えられる。

- ・中段は、口が真一文字にしている、「真顔」の状態

- ・下段は、口角が下がっている、暗い印象を与える

表情 <small>笑顔と真顔</small>		目		
		①	②	③
口	④	①	②	③
	⑤	④	⑤	⑥
	⑥	⑦	⑧	⑨

2. 幼児・学童に対して話すときの心得

(1) 幼児語を多用しない。一人の人格のある「人」としてみる。

- ・幼児語で話さず、丁寧な言葉で接する

(2) 質問話法の活用

- ・「…は、あるかな？(ありますか?)」と、身近な出来事を引用して問いかける

3. 学生・高齢者に対して話すときの心得

(1) 「命令形」より「依頼形」

- ・「～してください」ではなく、「～していただけますか」という言い方にする

(2) 相手の言葉を正す必要はない

- ・対話時は、相手の使った言葉を用いて復唱する

- ・丁寧にするつもりで言葉を置き換えると、相手は正されているような感触を覚える

(3) 親しみの勘違いをしない

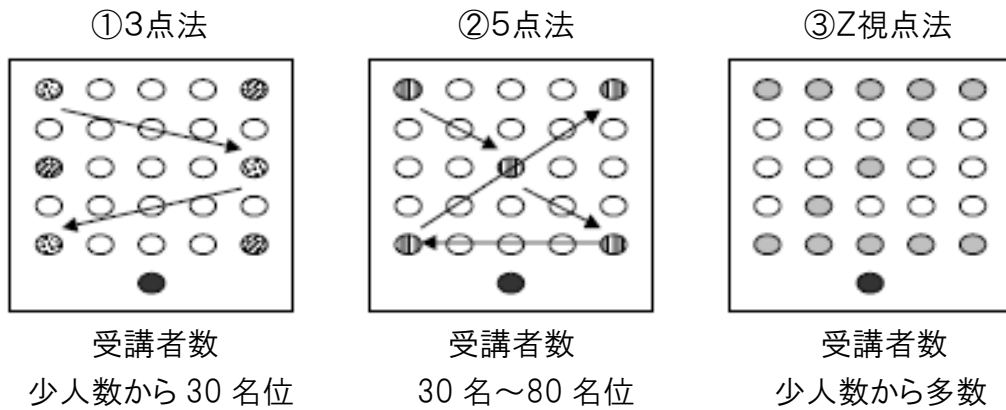
- ・相互関係の一線を越えないために親しみの差をつけない。みな平等に丁寧な言葉で接する

(4) 人は、ものの言い方に影響される

- ・音調表現に注意して、話し方に『情』を込める

- ・同じ内容でも、口調、音調表現によって印象が大きく異なる

4. 基本動作としての視点法



- ・視線は相手にとっての認知行動。受講者の安心感を得られる
- ・会場の大きさや人数によって、使い分ける
- ・Z視点法を大会場で活用する場合は小刻みにZを描くようにする

5. 自分の印象を管理する

◎好意の統計(アルバート・メラビアン)

Total linking (100%)	= Facial linking (55%)	+ Vocal liking (38%)	+ Verbal liking (7%)
	・笑顔や表情 ・身だしなみ ・所作	・声の調子 ・話し方 等	・言葉 ・話の内容

- ・人の印象は目に入ってきた印象の100%のうち55%が笑顔や表情、身だしなみ、所作で決まる
- ・残りの45%は耳から入ってきた印象で決まる。さらに45%のうち、38%は声の調子や話し方(非言語コミュニケーション)。残り7%はその人が使っている言葉そのもの(言語コミュニケーション)
- ・これは、言語と非言語が不一致のときに、人は何を信じるかであるから、言語と非言語が一致しているときは、この統計は不問である
- ※指導者は、言語と非言語を一致させることに努める。

6. 話しているときの基本動作(留意点)

- ・挨拶の仕方…語先後礼(先に言葉を発し、後から動作をつける)
- ・手の位置…後ろ手は避ける(高圧・威圧感を与える)、ポケットに手を入れない(落ち着きがない、あがっている印象)、手のひらを意図的に見せたほうがよい

- ・立ち方…男性は肩幅ぐらいに足を開く(力強さの演出)、女性は握り拳が1つ入る程度足を開く(安心感を与える、安定感)、前後に足をずらす(ソフトな感じを与える)
- ・立ち位置…演壇のところ。あるいは、聞き手の間を歩き、立ち止まる(親近感)

7. 美しい所作 ※視線について。

目線を合わせることは相手を認知している証し

- ・相手の目を見る…眼球を見ることではなく、目頭と目頭の間を見るということ。優しい視線を向けて、相手が威圧感を受けないよう時々視線をずらしてあげる。視線をずらすときのポイントは、相手の眉から上は見ない、胸の位置から下を見ない、両肩の外を見ないこと。

⇒中央側を見るということは相手を尊重している、認知している証拠。

【参考】聞き方のポイント(傾聴術と傾聴技法)

- ・傾聴術:相手の目を見る、うなずく、相槌を打つ、メモをとる、質問する、復唱する
※3種のうなずき(通常のうなずき、上体を倒して行う、首を小刻みに何度もふる)を場面によって使い分ける。
- ・傾聴技法:再陳述(おうむ返し)、感情の反射、感情の明確化、開かれた質問、閉ざされた質問、選択質問

【実践】お口の体操



あ



い



う



え



お

- ・濁音と鼻濁音の使い分けをきちんとすると、きれいな話し方ができる

8. 話す力 “メッセージの伝え方”

- (1)最も言いたいこと(主題)を先に述べる…結論から話すことで、講習に対する参加意欲を喚起できる。話の内容を理解しやすい。
- (2)共通言語を用いる…相手に伝わる言葉を使わなければ、相手の納得は得られない。専門用語、法律用語、隠語は使わない。

筋道を立てて話す(ナンバリング方式)…「まず、次に、最後に、以上」あるいは、「今日は3つのことを学んでいただきます」といったナンバリング形式で話す。

(3)短文で話す…短文で言い切ったほうが記憶に残る。

9. コミュニケーションの基盤

・コミュニケーションの基盤が、感情的な人、命令口調な人、人に依存するような人には、「事実」で話を進める。「事実」は誰も非難、否定することができない

10. 良い点を褒め(認め)ながら指導する

- ・具体的にどこがよかったのかを褒める(条件付き肯定)
- ・否定の際もどこが危険だったかを具体的に指摘する(条件付き否定)
- ・「拡張自我」を褒めるのも1つの手段

【交通安全指導等の事前準備】

1. 話材(お話をするときの母体となるもの)を探す

話材を見つける…人前で話ができない大きな原因は、経験がない、「話材」がないから。

- ①自分の体験が一番
- ②他人の話や、書かれた物でも可…身近な地域の事故などを引用して話す

2. 主題を明確にする…聞き手の記憶に残るよう、狭く絞って短く言い切る

3. 聞き手が興味を持たないのはどういう話か、どういう話に興味を持つかを理解する 「興味の持てない話をどのように伝えるか」

- ・抽象的にならないよう、講義の組み立て方を学び、受講者が理解できる例話を用いる
- ・笑顔で穏やかな口調で話す(笑いを取る必要はない)
- ・専門用語ではなく、平易な言葉を用いる
- ・クイズや問いかけなど、受講者を誘い込む工夫をして、話し手中心にならないようにする
- ・暗い内容でも、笑顔で今後の安全に向けた建設的な話をする

4. 講義の組み立て方

- ・「なぜ、大切なのか」… 例)自転車走行ルールがなぜ、大切なのか。
- ・「なぜ、そうなるのか」… 例)事故が起こる可能性があるから。
- ・「では、どうするのか」… 例)自転車走行ルールを学ぶ。

5. 例話の活用

- ・話の重要な裏づけとして説得力が増す
- ・実話を話すのが一番効果的だが、指導内容から逸脱しなければ、また、趣旨が伝われば創作してもよい

6. コメントの仕方と留意点

- ・サンドイッチ法で批評
 - ①よい点(事実をひろって)を褒める
 - ②改善点、問題点を注意する
 - ③励ます
- ・留意点
 - ①褒め過ぎない(自意識過剰になり、次へのプレッシャーとなる)
 - ②コメントは短めに
 - ③全員同じくらいの時間で
 - ④温かい気持ちを忘れない

7. 思考整理術(フレームワーク法)をマスターする

ロジックツリーを用いたスピーチトレーニング

- ・思考をワークシートに書き出して、番号順(①～⑬)に話すと論理的な話し方になる
 - ・「結論」は最初と最後に話す
 - ・「属性」を3つにしぼる。欲張らない
 - ・「私見」は属性に対する総括とする
- ※一度ロジックツリーを作成しておけば、同じ講義を別の機会にする際にも使用できる。

【まとめ】

1. 講話準備を行う

- (1) 交通安全講習、イベント等(状況・場面)での目標を明確にする
- (2) 参加者に何を伝えたいのかの「テーマ」を必ず設定する。欲張らない
- (3) テーマの主題を30文字以内でまとめ、話の展開を考える
- (4) 主題を裏づける内容を、ナンバリング方式でまとめる
- (5) 生きた話をするための仕上げは『表現力』である

2. 実践の場数を踏む

- ・講習できる場を意図的に見つけて、効果的な話し方のスキルを磨く
- ※職場、家族、友人間でもよい。

●講義「交通事故被害者支援について」/12月5日(月)15:20~16:10
中土美砂(公益社団法人被害者支援都民センター)

配布資料:「交通事故被害者支援について」



1. 交通事故被害者支援について

交通犯罪の遺族の中には、交通事故などというものではなく、犯罪だ、事件だと感じている方がいる。交通事故というと、アクシデント・事故だから仕方ない、偶発的で避けられなかったような響きがある。しかし、交通事故は加害者がいて、法律違反を伴う立派な犯罪であり、そして防げる犯罪である。なかには偶発的な交通事故もあるということは承知しているが、このように感じている被害者遺族は決して少なくないのも事実である。

一口に「犯罪被害者、遺族」と言われるが、その言葉自体、当事者には受け入れることが難しいということもご理解いただきたい。

2. 公益社団法人被害者支援都民センターとは

⇒犯罪の被害に遭われた方を支援する東京都における民間団体。

・支援は、電話相談から面接、裁判支援等をしており、自助グループにも参加している

3. 生命のメッセージ展

⇒主役はメッセンジャーとその家族。メッセンジャーの8割が交通犯罪の犠牲者。

4. 実際に遭った事故の話

平成16年5月9日(日)、この日はその年の母の日。午後1時5分頃、多摩川沿いの、とあるサッカーグラウンドの出入口付近の幅5メートルくらいの狭い歩道のない道路で、当時4歳だった次男、滉太は走行してきた黒色の改造車にノーブレーキで背後から撥ねられ、3メートルほど上空にとばされ、その日のうちに亡くなった。

加害者は、迷彩服を着こみ、親族とサバイバルゲームをしに、多摩川に毎週のように来ていた当時26歳の男性だった。その後起訴され、2回の公判をへて、禁固2年、執行猶予4年という判決が下された。

この日は小学1年生になりたての、長男のサッカーの試合の応援に家族みんなでそのグラウンドに来ていた。試合が終わり、帰り支度をしている最中の出来事だった。現場付近の路上には、帰る途中のたくさんの子供(小学生、幼児)や保護者の大人がいたが、そんな中を一台の黒の乗用車が、けたたましくクラクションを何度も鳴らしながら、かなりの高速度で目前を駆け抜けていった。見ていてとても乱暴な運転だった。またそのク

クラクションの鳴らし方は、「注意喚起」というよりも「威嚇」だった。実際に、のちの目撃者の話によると、そのクラクションは、周囲の人に向けられたものではなく、前方で転回している車に対し、「どけ」という感じで鳴らされたようだった。その加害車両がどこかでUターンをし、幅員 5 メートルの道路に対し、子供たちを迎えにきた車が路肩に停まり、さらに狭くなった道路を、周囲の方の体感では、時速 60 キロから 80 キロ、警察によると時速 45 キロのスピードで走行してきて、そのまま路上にいた滉太を、ブレーキをかけることなく背後から撥ね飛ばした。

その瞬間を、幼い当時 6 歳の兄と 3 歳の弟は目前で、私は視界の片隅で見っていた。私には、空高く撥ね上げられたものは、手足がぶらぶらとしていて、ドラマとかで崖から落とされる、まるで人形のように見えた。最初に撥ねられたときの音は、とても大きな音だったらしいが、不思議とその大きな音は聞こえなかった。ただ、その後滉太の体が私の上を通り越して私が背にしていた他の家のお迎えの車のボンネットに落ちた鈍い、「ドスン」という音は背後から聞こえた。滉太が履いていた靴の片方は衝撃で片方脱げていた。

15 分ほどして救急車が到着したが、待っている私達にはもっと長い時間のように思えた。救急車に乗り込む前に、迷彩服を着た男性が立っているのがちらりと見えサッカー関係者とはまったく違う服装だったので、「あれが相手なのかな」と思ったが、それよりも滉太のことで頭がいっぱいで、私は救急車に乗り込み病院へ向かった。

搬送された病院の医師の説明では、強い衝撃による脳内出血があるので通常意識は戻らないこと、自力呼吸はないこと、強力な薬で血圧を上げているが、その効き目は 24 時間もたないので、「家族、親族を集めてください」という話だった。その絶望的な話の間、私は恐怖でずっと震えていた。それまで、子供を、滉太を失うことなんてまったく今まで考えていなかった。滉太は健康で、優しく、賢くて、4 歳の小さな子には珍しくらい親のいうことを比較的好く聞く子だった。そして物心付いた時から 3 人兄弟の真ん中というせいだったこともあり、人の気持ちの分かる、兄弟思いの子だった。結局そのまま滉太は目を覚ますことなく、その日の夜に亡くなった。身勝手な運転をした加害者によって、私達は最愛の家族を奪われた。ただ現実感あまりなく、周りは白い霧がかかったような、薄いヴェールが目の前にあるような、一歩引いたところから物事を見ているようだった。時間の感覚もまるでなかった。

その日の朝には元気に走り回っていた滉太は、日付が変わる頃、小さな棺に入れられて帰宅した。

加害者は刑事裁判では「謝罪、謝罪」と言っていたが、いざ執行猶予付きの判決が下ると電話の一本も寄越してこなかった。現場から数分のところに親族もいて、職場もあったが、現場にお花を供えてくれる様子もなかった。

事件当時は刑事司法においては、被害者や遺族は「犯罪を立証するためのただの証拠」といわれ、人権なんてなかった。ましてや、「死者の人権」などというものは今現在にいたっても認められていないように思う。捜査でも、裁判でもまったくの蚊帳の外だった。

滉太が亡くなった年の平成 16 年 12 月に犯罪被害者等基本法が制定されて、被害者に権利が保障されるようになった。今では、罪種にもよるが被害者参加制度があり、被害者自身が検察官とともに法廷にたつこともできるようになった。資力要件はあるが、被害者参加の場合は国費で弁護士を頼めるようになった。

ただ早期の段階から自動的に弁護士が付き、憲法や刑事訴訟法に守られている加害者側と比較すればまだまだ対等ではない。

息子は、統計上「交通事故死」ということになるが、私達は、加害者に「車」という凶器を持って殺されたと思っている。周りをまったく省みない運転行為そのもの、その裏にある「車を見ればよけるだろう」という自己中心的、車中心的な考え方をする加害者に滉太は殺されたと感じている。

それでも私達家族は周りの方に支えてもらった。その支えがあって今ここに立っている。

5. たくさんの方のお力を借りてきました

- ・生命のメッセージ展に参加したり、シンポジウムで発言をさせていただいたりした
- ・知人友人からはおにぎりや煮物の差し入れや情報提供。事件が PTA 保険の対象になり金銭的に助かった。次男を偲ぶ絵本も作ってもらった
- ・支援センターでは話を聞いてもらい裁判所へ付き添ってもらった

6. 一般的に交通事故の被害に遭うと…

⇒事件そのものの「一次被害」だけでなく、その後起きてくる様々な問題「二次被害、二次的被害」が生じる。

- ・心身の不調や変化
- ・社会生活、日常生活への影響
- ・各種手続きの負担
- ・加害者への対応等

7. 犯罪被害とは

- ・他者から傷つけられる体験。(安心安全感の喪失、人が信じられない、恐怖感・不安感(また何かされるかも)、社会(人の集合体)への不信感、過度な警戒心・集中困難)
 - ・公正世界仮説: 善い行いには良い結果が、悪いことが起こる原因がその人にあるという考え、因果応報
- ⇒被害に遭うには遭うだけの理由があるのでは、と他人から言われたり、自分自身もそういう思い込みがあって、自分を責めてしまうことは少なくない。
- ・また、そのように自責感があるなかで追い打ちをかけるように二次的な被害が起こってくる

8. 二次的被害

- ・被害を受けると価値観やものの見方が変化したり心が傷つきやすくなっているため、私個人的には二次的被害はゼロにできないと思っている。ただ知識と配慮をもって接すればゼロに近づけることはできる
- ・周囲の人からの影響で日常生活を送ることができなくなることも。「子どもを亡くしたかわいそうな人」という憐みの視線が嫌で引きこもりになってしまうこともある

9. 二次的被害の一例

- ・被害者、特に交通事故は情報を欲している。多くの遺族は警察からの突然の電話で被害を知ることになる。真実がどうなのか、大切な家族が亡くなった時の最後の姿はどうだったのか等本当のことが知りたい
- ・交通被害での特徴は加害者をかばうような発言がよくあること。特に子供が被害者だと飛び出したのではないか、というインターネットの書き込みは少なくない
- ・交通事故は特に過失割合ということが言われる。ご遺族の中には捜査に不信感をもって、加害車両と同じ車を購入して実況見分する人もなかにはいるほど
- ・知識と配慮をもって、被害者が失っている自尊心や自己肯定感を高めていくように尊重する必要がある
- ・手続面での負担、不満(書類の間違い、長時間にわたる手続き対応等)

⇒二次的被害は孤立感を深め、被害からの回復を妨げる。

防ぐためには…

被害者の心情や要望を理解する

可能な限り被害者の気持ちを尊重して手続をすすめる

10. 心身の不調や変化

- ・強い自責感、自尊心・自己肯定感の低下、無力感
- ・認知のゆがみ、感情の麻痺、コントロール不能
- ・自死願望
- ・身体反応(不眠、食欲不振・亢進、頭痛、腹痛、動悸など)
- ・集中力、決断力、理解力、記憶力等の能力低下
- ・警戒心が高まっているのでひとつに集中できない。集中したら危険察知できない。一方で第六感が鋭くなる
- ・このほか、フラッシュバックや回避といって事件に関するものを避けるということが起きる。記念日反応は何年たっても起こり得る

11. 社会生活・日常生活への影響

- ・ひきこもり(人混みが怖い、同情や憐みの目を避ける)
- ・一時的な能力低下により学業、仕事がうまくいかない
- ・休学、退学、休職、退職
- ・転居(自宅が被害場所、それ以外でも)
- ・家事、育児、介護ができない
- ・経済的負担増加・困窮(医療費、交通費、裁判費用など)

12. 各種手続きの負担

- ・刑事手続き(よくわからない、やりたくない、時間をとられる)
 - ・病院、行政、相続、名義変更、遺品整理など(ご遺族の場合)
後遺障害を負われている場合、その程度によって障害認定の手続きなど
 - ・転居、転校、転職に伴う手続き
 - ・損害回復のための手続き(交渉、民事裁判)
- これらすべてを、サポートなしで行うことは非常に大変なこと。

13. 殺人/交通支援及び制度の利用率

- ・故意犯罪に関する制度の利用率が多い。そもそもそういった支援や制度があることを知らない可能性もある

14. 被害者支援都民センターについて

- ・犯罪被害相談員と直接支援員は所定の研修を受け、実務経験を経て東京都公安委員会から指定される。ほとんどは国家資格を取得し、相談を受けている
- <都民センターの支援>
- ・必要に応じて電話相談から面接、付添支援など行う。刑事手続きのサポートとメンタルケアも行う
- ⇒犯罪被害者等早期援助団体の利点を活かしたサポート。
- ・令和2年4月1日に、東京都の犯罪被害者等支援条例が施行されたこともあり、相談件数は上昇傾向にある

15. 当事者団体などの活動

- ・世界道路交通犠牲者の日(国連 2005年10月26日)
11月第3週日曜日
⇒世界道路交通犠牲者、被害者の日ということで、追悼のキャンドルナイトを灯した。
- ・犯罪被害者全国大会(11月) 通称ハートバンド
- ・ドライブレコーダー、歩車分離信号機、いのちの学校、Coffee aid

⇒ドライブレコーダーは今では当たり前のように装備しているが、18年前は遺族が開発に加わり啓発活動をしていた。

- ・犯罪被害者団体サイト(警察庁・国土交通省)

16. 運転する方々へのお願い

- ・安全運転は自分も他者も家族も守る
- ・思いやりとモラルをもって、ルールを守って
- ・飲んだら乗らない
- ・体調管理し、無理をしない、無理をさせない

17. 今後の課題

- ・第11次交通安全基本計画

令和7年度までに年間の24時間死者数を2,000人以下とする目標が掲げられている

遺族感情としては「ゼロ」を目指してほしい

- ・TIC(トラウマインフォームドケア)

医療・保健・福祉・教育・司法などさまざまな領域で、トラウマについての理解を深め、サービスの多様な局面でトラウマへの癒しを大切にしようとする支援の基本概念である

- ・交通犯罪被害者にもサポート・ケアが必要
- ・交通犯罪被害者が物理的・精神的サポートを受けられるような社会づくり
- ・交通犯罪被害者へのサポートやケアが当たり前になるように

●講義「交通安全教育デモンストレーション」/12月6日(火)12:40～13:40
警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係

配布資料:「チャイルドビジョン」



【導入について】

- ・ボールあげゲーム
- ・ブーニャーゲーム 等

【幼児の事故防止(歩行編)】

子供の自転車死亡・重傷事故⇒出会い頭 8 割
子供の歩行中の死亡・重傷事故⇒横断中 7 割
※子供側に違反があるケースが多くある。

◎幼児の特性

- ・視覚、視野が狭い
- ・ひとつのものに注意がいくと周りのものが目に入らなくなる
- ・物事を簡単に理解する
- ・大人の真似をする

【幼児の事故防止(自転車編)】

交通ルールの教育に併せて、ヘルメット着用の重要性を伝えていく。
身近な大人達は、良きお手本となるような行動を心がける。

【デモンストレーション(実演)】

◎腹話術、マスコットキャラクター、手作りの小道具などを交通安全教育に取り入れる

●講義「子供の交通安全教育について～幼児・学童の発達と交通安全学習～」
/12月6日(火)13:50～15:00

山口 直範（大阪国際大学 人間科学部人間健康科学科 教授）

配布資料:「子供の交通安全教育について
幼児・学童の発達と交通安全学習」



はじめに…

- ・交通心理学とは
様々な基礎心理学を応用して、交通安全のための対策、教育、講習などに活用
- ・発達心理学とは
人間は胎児の頃から生涯にわたって発達していく概念のもと、よりよく生きるための心理学

1. 発達心理学の観点から交通行動を理解する

- ・発達心理学は、乳児期(胎児期を含む)～老年期まで人間の生涯にわたる発達を扱う心理学
胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期
- ・時間軸の中で加齢とともに心も体も行動も変化していく過程を発達と呼ぶ
- ・「生涯発達」の考え方
人間の発達には若い頃をピークに後は落ちていくものではない
人間は人生を全うする最後まで発達を続けていく

2. 子供の歩行中の事故

- ・歩行中の交通事故死傷者は、高齢者に多いと思われがちだが、実際は7歳の子供が最も多い

令和3年における交通死傷事故の発生状況等について(警察庁, 2022)

- ・横断歩道横断中の事故は10年間ほぼ横ばい状態が続いている

状態別(歩行中、自転車乗用中、乗用車乗車中など)交通事故死者数の状況(警察庁, 2021)

- ・主な欧米諸国の状態別交通事故死者数の構成率において、日本は他国に比べ、歩行者の死傷者数の占める割合が多い

ITARDA(2016)の報告による7歳児歩行中事故の特徴

- ・73%が日中に発生、薄暮時を合わせると93%
 - ・平日の死傷者数は、土曜日の約2倍、日曜日の約2.5倍
 - ・6歳から登下校中の事故が増加するが、遊戯中・訪問中など登下校以外にも7歳が最も多い
 - ・男児の死傷者数は、女児の約2倍
- 幼稚園や保育所のように送迎がなくなったから事故が増えただけなのか？

【人間発達のシステムモデル】

- ・河合(1989)は、“新たなシステムへの変化の前には不安定な移行前状態が存在する”ことを指摘
- ・子供の交通行動においても同じことがいえ、不安定な揺らぎを繰り返しながら、より上位のシステムへと移行していくことにより安全行動が定着する

子供の発達と生態学的アプローチ

- ・生態学的に考えると、就学に伴う通学が作り出す、活動システム全体の変化を考えるべき
- ◎心理的な機能の発達とのマッチングが不十分
- ◎1人の交通参加者としての自立に伴う行動範囲の拡大

子供の交通行動を形成していく生態学的システム

- ・家族、友人、学校、地域、環境、文化などが相互作用することによって、子供は交通行動を獲得していく

3. 子供はなぜ道路に飛び出すのかー発達心理学の視点からー

- ・子供の交通事故の要因で最も多いのは道路への飛び出し
 - ・では、なぜ子供は飛び出してしまうのか？
- ⇒発達心理学の観点で考えてみると幾つかの要因が挙げられる。

(1) 子供には見えていない

- ・大人と比べて子供はあらゆる面で未発達
- ・背が低い、腕力や脚力が弱い、知的能力が未熟など、これらは発達段階の前期であるため当然のこと
- ・目だけが大人並に発達しているわけではない
- ・いろんなモノを見て視覚から脳へ刺激を受けて目が発達していく

- ・視野が狭いのは、幼児の発達の特性として理解した上で「右見て、左見て」道路を横断することの意味や重要性を子供や保護者に伝えていくことが大切

アイコンタクトが重要(意思表示)

(2) まだ他者理解ができていない

- ・発達心理学者のピアジェの「自己中心性」
自己中心性とは、わがままや自分勝手といった意味ではなく、身の回りのできごとを自分に引きつけて考えてしまう(一般的に就学前後あたりまで見られる)
⇒まだ、相手の立場から物事を見ることができない。

「心の理論」の獲得

- ・心の理論の獲得とは、他者の心を推察したり、理解したりできること
- ・他視点の獲得により、やがて自分はその場でどうすべきかといった社会的役割の修得へとつながっていく(小学校の中学年以降)

子供は車両速度の判断が非常に苦手

- ・近づいてくる自動車に対してどこまでならば横断できるかの判断が苦手
- ・大人は距離と速度で道路を渡れるかどうかを判断するが、子供は距離で判断する傾向がある(速度の上昇は加味せず、同じポイントで横断可能か判断する)

交通場面での自己中心性

- ・公道では、様々な交通参加者が各々の目的のために道路を使用(通行)している
- ・歩行者または自転車としての交通参加経験しか持たない幼児が、車の挙動やドライバーの心理を理解できるわけがない
⇒危険行動に対して幼児に相手(ドライバー)の気持ちを考えさせるというような理不尽な要求をするよりも私たち大人が幼児・児童の行動特性を理解することが重要。

(3) 子供は感情コントロールが苦手

- ・心の理論を獲得していても、なぜ子供たちは道路に飛び出すのか?
⇒「情動の発達」が十分ではない。
- ・情動とはあまり聞きなれない言葉だが、心理学の専門用語で英語では“emotion”といい、喜び、驚き、怒り、悲しみ、怖れ、嫌悪などの激しく抑揚のある心の動き

感情の抑制(コントロール)が苦手(情動発達)

- ・発達心理学で子供の行動をみると…子供は衝動的で自分の感情を抑えきれない。

「道路を挟んで子供がお母さんを発見、車が接近しているのに道路を横断しようと…」
こんなとき、どう声をかけますか？

- ・幼児に「あぶない！」は…あまりよくない場合がある
- ・乳児・幼児は養育者を避難場所(安全基地)として使うため、不安を感じると駆け寄ってくる
⇒意味も分からずに注意を促すのではなく、児童の行動の背景に何があり、どのような特性を持っているのかを理解して伝えることが重要。
交通先進国のドイツでは親が責任をもって横断(通学)方法を教えている。
- ・親が責任をもって教育し、子供が小学校まで1人で安全に通えるようになってから通学させる

4. 心理学を活用した教育技法—子供の命を守り続けるために—

(1) 目先の安全にとらわれない本当の交通教育

- ・交通心理学の専門用語:「危険感受性」(危険に対する感性を豊かに育む)という言葉がある
⇒幼い頃から危ない目に会う前に、それを予測して回避する力を身につけることが大切。危険への感性を磨くことは、交通事故に限らず犯罪被害や災害被害の予防につながる。

最近接発達領域 Zone of Proximal Development(ZPD) 発達心理学者のヴィゴツキー

- ・「人に教えてもらわなくてもみんなと一緒にできること」と「1人でできること」との間に他者の支えがあればできる領域がある
- ・交通安全教育も同じことがいえるはずなのに「右を見なさい、左を見なさい」でいいのか？
- ・子供が新しいことにチャレンジする際に自分1人の力だけでそれを達成できる時、大人がほんのちょっと手助けすることで達成できる

「かわいい子には旅をさせよ」

- ・養育者が子供を交通事故から守ろうとする気持ちが強過ぎるため、危険から遠ざけるばかりの教育になってしまっているはいけない

子供が自ら学ぶ機会を奪っていませんか。

- ・心配だからといって、大人がすべてやってしまうのは、子供の「危険を感知して避ける能力」は、いつまでたっても身につかない。子供に自ら体験させ、それを見守ることも大切な教育

大切だからこそ

- ・危険から遠ざけるばかりでいると、何が危険でどうすればいいのかを学ぶ機会を奪っている
- ・大人が一方向的に安全な環境を作るのではなく、子供に危険を考えさせる領域を残しておくことが重要

(2) 能動的な交通安全学習

- ・交通安全教育は自ら学び、人の行動から習う「学習」である
- ・「安全確認しなさい」「気をつけなさい」と他者からやらされているではダメ
- ・他者にやらされている行動は、監視の目が届かない場所ではサボるようになってしまう
- ・子供が自分で安全かどうか判断する領域を残しておく

子供は安全確認ができないのか？

- ・大人と出かけたときの子供は、大人にすっかり頼りきってしまう
- ・さらに、友だち数人と一緒に行動すると、とたんに警戒心が乏しくなる

ピグマリオン効果

- ・アメリカの教育心理学者ローゼンタールが期待と成果の相関関係について提唱した
⇒人は期待されたとおりの成果を出す(期待に応える)傾向がある。
- ・他者にやらされている行動は、監視の目が届かなくなればサボる。私たち大人は子供よりも先に人生を終える。人生を最後まで見届けることは困難
⇒子供が能動的に判断できるように教育しなければならない。

5. 自転車運転のための交通安全学習

(1) 被害者教育と加害者学習

- ・自転車は利用するものではなく、自分で運転する車両
⇒責任を伴う。
- ・今までは被害に遭わないための教育が中心だったが、これからは加害者になる可能性も学ぶ
- ・歩行中と自転車乗車中の交通事故の死傷者数が小学3年生くらいで入れ替わる。つまり、小学3年生くらいから自転車教育にも力を入れていく必要がある

能動的に子供が学ぶ体験型交通安全教育

- ・現在の自転車教育は、子供の発達特性や実態を把握した教育なのか？
- ・今やっている教育は、生態学的に妥当なのか？

- ・課題の難易度は適切なのか(簡単過ぎないか)?

交通先進国のデンマークの実践教育では

- ・幼児期から自転車教育を行っている
- ・ペダルのない二輪車を使って車両感覚やお互いに譲り合う心などを遊びの中で学ぶ

(2)生態学的妥当性

- ・学校のグラウンドや教習コースで子供たちが学ぶ教育を否定しているわけではないが、子供という生物の自転車行動特性を理解しているのか
- ・多くの幼児が就学前に自転車に乗っている(6割前後)
- ・小学3年生への交通安全指導を自動車に例えると…運転歴4年目くらい(車だと初心者マークが取れて初回の運転免許証更新を終えている状況)
⇒初歩的な基本操作の指導でいいのか?
現実的・実践的教育内容が必要。

自転車教育の実践

- ・休日に小学校のグラウンドで実施
⇒自分の自転車を使用し、難易度の高いコース設定や携帯電話で通話しながらの運転などの禁止行為をあえてやる、コース内に他の交通参加者がいるなど、通常の自転車教室と違う学習ができる。

子供たちの興味を向ける工夫

- ・楽しく学ぶ
⇒単純なコース走行ではすぐに飽きる。
- ・現実の交通に近い環境設定
⇒無人の道路にたった1人だけ自転車で走行?難易度の高いコースレイアウト。
- ・いつも運転している車両を使用
⇒成長著しい小学生は大きめの自転車に乗っている。
- ・いつもの知っている場所を活用
⇒子供の行動範囲は狭い。写真や事例は身近な内容にして現実感を持たせる。

中学生になれば自転車の走行レーンが変わる。自転車は車道が原則、歩道は例外。

- ・自動車やバイクと異なり、並進が禁止されている
- ・一定の条件の下に歩道や路側帯の通行ができる。交差点を右折する際は、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、交差点の側端に沿って徐行しなければならない(道路交通法第34条第3項、いわゆる「二段階右折」)

⇒自転車は車道へ、小学6年生のうちに学習しておく。

6. 子供の交通死亡事故ゼロの国

- ・2019年ノルウェーでは16歳以下の子供の交通事故死者ゼロ(ビジョン・ゼロの実現、ノルウェーの人口：532万人)
- ・ノルウェーの首都オスロ(人口：67万人)では年齢に関係なく、歩行者と自転車の交通事故死者はゼロ
- ・ノルウェーが「ビジョン・ゼロ」を導入したのは2002年
- ・2019年フィンランドの首都ヘルシンキ(62万人)では、歩行者に関する交通死亡事故がゼロ
- ・日本でも生活道路で実施している「ゾーン30」をフィンランドでは、市街全域に適用した
⇒事故死者ゼロは人が少ないからではない。やればできる。

7. 人間の行動 $B=f(P \cdot E)$

B = behavior:行動、P = personality:人間特性、E = environment:環境

- ・気質や性格等の個人特性と生活環境や家庭環境との相互作用によって子供の交通行動が培われる
- ・子供の周囲にいる大人の行動も決定因の1つとなるため、大人が子供たちの前でモデルとなる正しい交通行動を示さなければならない

【悪い行動の学習例：信号無視】

- ・子供は大人の自転車の信号無視を見て→参考にして→学んで(よくないことの学習、誤った信念) →自分の中に取り入れて→状況によって実践(信号無視)する
- ・水野・徳田(2020)は、交通ルールやマナーを守っていない姿を子供に見せているケースは子供が交通事故に遭う危険性を高め、ルールやマナーを守る「よき交通社会人」を育てる教育を阻害する行為であると指摘している

子供の命よりも大切なものはない

- ・有効な交通安全教育は自分がいなくても子供たちの命を守り続けることができる教育
- ・子供たちが、そして指導員も交通事故の被害者にも加害者にもならないことを願っている

●講義「いきいき運転講座」/12月6日(火)15:10～17:00
池田 佳代（株式会社コンセプトン 代表取締役）



配布資料:「いきいき運転講座」教材

【「いきいき運転講座」の考え方と特徴】

「いきいき運転講座」とは

脳を元気にし、話し合いながら学び、交通安全力を高めることを目的としたユニークなプログラム。講座の受講者数は2008年8月から約35万人にのぼり、約90%の交通安全教育指導者からは「受講者の反応がよかった」という回答があった。

受講者からは「自分が発言することで意識が高まる」「他の人の意見を聞くことで、自分が気づかないことが分かる」「時間があつという間にたち、楽しく勉強できた」などの声がある。講習が終わった後、「おもしろかった」という声をかけてくださる方が多い。

交通安全担当者の方からは「みんなに考えさせ、発表させる教室は新鮮」「人の意見を聞くことによって気づきや学びがある」「話し合う、考える、見るなどいろいろな場面があり、楽しい」「寝てしまう人がいない」という声があった。

「先生の話をもっと聞いただけで楽しくない」「早く終わって…」といった、交通安全教育に持たれているイメージを変えたいと願ってプログラムづくりに取り組んだ。

1. 「いきいき運転講座」の目的

- ・自動車乗車中死者数は減っているが、死者数に占める高齢者の比率が高くなっている。一方で、過疎地だけでなく都市部でも、買物や病院通いのために、運転を続けたい高齢者がたくさんいる。また、車は、便利さだけでなく、家族や友人との交流や趣味やスポーツなどを楽しむための移動手段として重要。いきいきした活動を支え、精神的・心理的にサポートする力もある
- ・この講座は運転を必要とする高齢ドライバーに、長く健康で安全に運転を続けていただくための交通安全教育プログラムで、(一社)日本自動車工業会が開発した
- ・活力ある長寿社会に向けて、高齢ドライバーの運転行動、安全意識、生活活性度(いきいき生活)を高め、アクティブな社会参加の実現に貢献することを狙ったもので、実験教育の中で効果を検証しながら教材を作成した
- ・交通安全、心理学、脳科学、高齢者の健康などの専門家6人でチームを作り、開発を行った
- ・警察庁「高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議」において、「いきいき運転講座」の有効性を認められ、高い評価を得られた

- ・筑波大学の研究チームによると、高齢者で運転をやめた人は、運転を続けた人に比べて要介護となる可能性が約2倍高くなるという
- ⇒移動の手段を失うと「活動量」が減って健康度が下がる。事故の予防はもちろん、高齢者の安全運転への支援が大切。

2. 「いきいき運転講座」の考え方

- ①コミュニケーション力を高めながら、「いきいき度をアップ」する
⇒活動的な人ほど長生きであり、身近に何でも話し合える仲間がいる人ほど、交通安全意識が高くなる。
- ②自分で考え、行動を変化させることで、「交通安全力をアップ」する
⇒教え込むのではなく、気づきを通して安全性を高めることに焦点を置いている。



高齢ドライバーの交通事故減少

3. 「いきいき運転講座」の特徴

特徴1:よい仲間づくりをする

- よい仲間がいる人は安全に行動できる
 - ・小グループ学習
 - ・活動的な暮らしを推奨

特徴2:話し合いを中心に進める

- 意見を出し合って自分たちで問題解決
 - ・気づきを促し、行動を変化させる教育メソッド(コーチング、役割演技法、ミラーリングなど)

特徴3:脳機能を高めながら交通安全を学習できる

- 交通脳トレ+話し合い

特徴4:免許がない方も参加できる

- ドライバー、歩行者、自転車等の立場で話し合い
 - ・それぞれの立場から意見を出すことで「気づき」があり、地域の交通安全活動全体に役立つ

【高齢ドライバー対象の実験例】

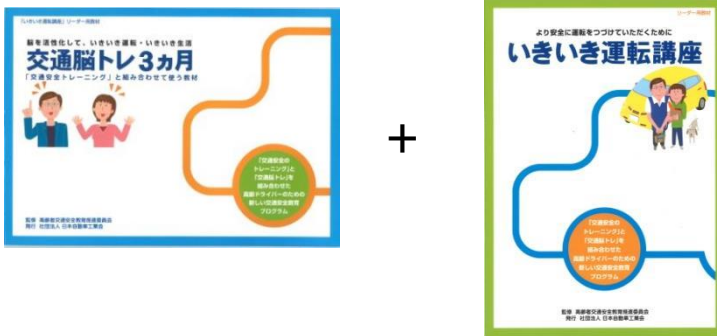
「一時停止標識と停止線のある信号機のない交差点」の安全な通過方法を聞き、その後、車に乗ってもらい通過方法を観察した。約80%の方々は「停止線で止まり、安全確認してから徐々に道に出る」と、正しく答えた。しかし、実際に車に乗ったときに停止線で止まった方は約15%だった。

- 知識と行動のギャップをどう埋めるのか

- ・問題点を単に伝えるだけでなく、問題点を気づかせることがポイント
- ・小グループでのディスカッションや、運転の問題行動をビデオで観察する手法などを使っている

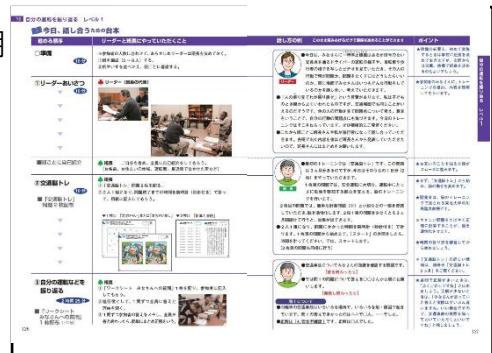
4. 「いきいき運転講座」の構成

- 「交通脳トレ」と「交通安全トレーニング」の組み合わせ



- 指導者用資料「今日、話し合うための台本」の活用

- ・あいさつ、話し合いの進め方、発言を引き出す方法など、そのまま読み上げるだけで、講座を進めることができる
- ・初心者もベテランも同じレベルで講習を展開できる



【「いきいき運転講座」体験】

1. 「いきいき運転講座」の流れ

準備

- ・5～8人一組のグループに分ける
- ・各班の班長を決める
- ・班員は1名につきひとことを原則とし、班長がまとめて班の意見とする

① 挨拶と自己紹介

- ・グループ内で自己紹介(名前、住んでいる地域、好きなこと、100点満点で昨晩の夕食評価*など)をすることで雰囲気緩和→アイスブレイク
- ※講座の中で行う「自己評価(100点満点で運転を自己採点)」のイメージがつかめる。

② 交通脳トレ

- ・脳の機能を高める「交通脳トレ」

※ほかの人と競わないで、マイペースでやることを強調する。

③ 交通安全トレーニング(グループ学習)

・ワークシートを活用し、グループで話し合う

2. 進め方のポイント

「自分の運転を振り返る」

(1) 講座の前後に 100 点満点で自己評価

・前後の点数の差で、学習効果をつかむことができる。講習後は自己評価の点数が下がる人が多い。自分の運転の問題に気づき、客観視できるようになったといえる

(2) 正解(安全な行動)を出してから、現実(危険な行動のビデオ)を見て比較

※いきなりビデオを見せない。

・ビデオを見せる前に、グループで話し合い、正しい通過方法を確認すると学びが深まる

(3) ビデオを見ることで、人の振りを見て、我が振り直す

・問題行動を見ることで、自分の問題点を気づくことができる

(4) 違う意見、共感する意見の中から学ぶことができる

・異なった意見を聞くことで気づかなかったことを発見したり、共感したりして学びを得る

● 台本があるので気軽に使ってみる

【その他の交通安全トレーニング】

・交通脳トレ+「いきいき運転・いきいき生活」

・交通脳トレ+「危機予知トレーニング」

・交通脳トレ+「ヒヤリ体験を生かす」

【「いきいき運転講座」の話し合いの効果】

● 自分の意見を言い、人の意見を聞く中で、学び合い、「気づき」や「発見」がある

● 1人では無理でも、グループで話し合えば、みんなの知恵が集まって、指導者が伝えたいと思っていることが考え出せる

※指導者は、よい答えは褒め、足りない意見を補う。

● 自分たちで考え、見つけた答えは忘れない

【よくある質問】

● 高齢者は本当に交通安全について話せるの？

・交通参加者としての長い経験があり、わいわいがやがやと楽しい交流ができる

● 高齢者は「班長」になって、話の進行役ができる？

- ・先生、管理職、地域の世話役経験者をお願いする
- ・会議の要領を進める
- 面白そうだけど、もっと短時間でできないの？
 - ・グループ分けせず、指導者と受講者全体がキャッチボール方式で行う方法もある
 - ※「30分でできる」など自動車工業会のホームページにある「好事例集」を参照。
- どんなところで活用されてきたの？
 - 「高齢者」⇒
 - ・シニアドライバースクール
 - ・高齢者交通安全教室
 - ・交通安全大学
 - ・市民講座
 - 「壮年、子供」⇒
 - ・社員教育
 - ・安全運転管理者教育
 - ・小学生、中学生の授業

●グループ討議結果発表/12月7日(水)9:20~10:30

「高齢者の交通安全A」グループ

【課題 ①】

高齢者の支援サービスについて

⇒高齢者の運転免許自主返納支援として、バス乗車券の配布やタクシー運賃割引等のサービスを実施しているが、地域によっては車が必要な所もあり、一律に返納を促すわけにもいかない。

【対策案】

講習会や交通安全教室を実施する等、交通ルールの周知啓発を図り、ルールの遵守を図っていく。

【実施上の問題点】

コロナ禍により、参加者を集めることに苦慮している。 →【課題 ②】へ

【課題 ②】

講習会(教室)の参加者の促進について

⇒コロナ禍により、講習会が実施できない。また、実施しようとしても人が集まらない。

【対策案】

老人クラブに対する呼びかけやチラシ配りを実施。市の広報紙での募集。ラジオ体操参加者を対象としたり、デイサービスに出向くことも。

【実施上の問題点】

老人クラブに所属し、交通安全教室に参加する方は元々交通安全に対する意識が高く、交通事故も起こしにくい。交通事故を減らすためには、参加しない人への周知啓発が必要となる。

【課題 ③】

講習会のマンネリ化対策について

⇒講習会が同じような内容になったり、マンネリ化しているため、実施すること自体に意義を求められることも。

【対策案】

日報を作成して実施内容を記録し、前回と同じ内容にならないように工夫する。また、指導員を交代することもある。参加・体験型の教室を実施する。

【実施上の問題点】

相手が年上ということもあり、高齢者への接し方が難しい。明るく笑顔で良い雰囲気づくりや丁寧な言葉づかいを心掛け、相手を敬うことや共感することも必要。

【課題 ④】

横断歩道のマナーアップについて

⇒歩行者に横断の仕方を指導しているが、斜め横断や横断歩道外横断等がなかなか改善されない。

【対策案】

効果的な周知啓発用の資料を作成し、周知啓発を続ける。講習では、具体例を出して説明する、運転シミュレーターの結果を説明して実感してもらう等を実施する。

【実施上の問題点】

歩行者だけでなく、ドライバー側の意識改革も必要であるため、ドライバーに対する広報や講習も必要。

「高齢者の交通安全B」グループ

【課題 ①】

「他人事」ではなく、「当事者」としての意識を持ってもらうには、どうすればよいか。

【対策案】

◎「身近なもの」として感じてもらう

- ・啓発する側から高齢者の方々の生活圏内に入っていく
- ・配布する反射材について、身に付けてもらえるまでサポートする(見届ける)
- ・交通事故の悲惨さを知ってもらう

【実施上の問題点】

- ・経費の確保が難しい
- ・病院においてチラシ配布をする場合などは、関係団体を巻き込み、外部連携・協力が必要となる
- ・反射材を身に付けてもらうためには 個々の対応となり、時間を要してしまう

【課題 ②】

交通安全教室等に参加されない高齢者には、どのようなアプローチが必要か。

【対策案】

- ・啓発する側から高齢者に会いに行く(病院、スーパー、街頭での声かけ等)
- ・間接的に伝えてもらう
- ・「交通安全教室」にこだわらず、楽しみながら交通安全を学ぶ機会をつくる

【実施上の問題点】

様々な場所に出向く場合、場所の確保や時間帯のアプローチが難しい。

「自転車の交通安全A」グループ

【課題 ①】

ヘルメットの普及について

【対策案】

- ・交通安全教室や広報活動の強化(リーフレットなども含む)
- ・ヘルメット補助制度の周知や入学時にプレゼント
- ・国・県などでルール化を図る(法律・条例)
「努力義務」ではなく「強制」にする

【実施上の問題点】

- ・財源の確保をどうするか(住んでいる地域や地区からの後援なども一案)
- ・現在、罰則がない・弱いため、ルールを厳格化するのは良いが、現実的に取締りなどの難しさがある

【課題 ②】

大人の自転車マナーの向上について(高校生以上)

【対策案】

- ・スタントマンによる事故再現、実演をみせる(スケアードストレイト)
- ・交通安全教室で学んだ子供たちが家庭に帰り、子から親に教えてあげる
(今日学んだ事をお家の人にも教えてあげてねといった声かけ)

【実施上の問題点】

- ・幅広い人達に周知ができない
- ・一回だけではなく、継続し、繰り返して啓発することが大切
- ・子供がいない世帯、独身の高齢者世帯に伝えにくい

「自転車の交通安全B」グループ

【課題 ①】

自転車のルールを周知する必要がある(特に中高生を含めた大人 ※高齢者を除く)

【対策案】

- ・親子対象のイベント等で、子供だけでなく大人も自転車シミュレーターの体験をしたり、スタントマンによる安全教育、ドライブレコーダーの映像を見てもらい交通事故を身近に感じてもらう(話をする際は、話し方や伝え方の工夫をする)
- ・「自転車安全利用五則」等のルールが書いてあるゼッケンやタスキを着用し、ルールの周知をはかる

【実施上の問題点】

- ・各地域で足並みがそろっていない現状が多い
- ・すぐには実現できないことが多い
⇒事業や行政機関、警察などの協力が必要。
- ・財源の問題
⇒ゼッケンやタスキなど、せっかく作っても着用しなければ無駄になってしまうので、着用の機会を設ける。

【課題 ②】

ヘルメット着用の周知

【対策案】

- ・正しく着用してもらうための呼びかけは、強く言うのではなく、着用する根拠を思いやっ
て伝える(例: 条例や事故例を元にする)
- ・地域によっては、ヘルメットを購入する際に助成金があることをパンフレットなどで呼び
かける(周知→購入→着用につながる可能性がある)
- ・おしゃれなヘルメットもあるということを知ってもらう
- ・交通教室等での実験(頭部を豆腐や水風船に見立て、ヘルメット着用・非着用で比
べて必要性を知ってもらう)

【実施上の問題点】

- ・カタログなどの情報普及をする(子供のうちから)
- ・小中学年での教育が必要で大人になってからも覚えてもらえているような、印象付け
る内容にする必要性

【課題 ③】

外国の方への周知

【対策案】

- ・パンフレットなどでルールを知ってもらう機会を作る

【実施上の問題点】

- ・日本語が理解できるように資料の工夫や通訳の方が必要な場合がある。事前準備が必要

【課題 ④】

保険の加入の周知

【対策案】

- ・上記対策案に加え、交通教室等でチラシや啓発物と共に伝える

【実施上の問題点】

- ・財源問題＋他の事業の協力が必要

【課題 ①～④】を踏まえて…

- ・イベントや交通教室など全体ルールを周知するには、事業や行政機関、警察などの協力が必要
- ・自分の言葉で相手にルールを周知するには、相手に響く講話内容、話し方の工夫をし呼びかける(効果的な話し方を実践してみる)

「幼児・児童の交通安全A」グループ

【課題 ①】

教育内容の理解度について

⇒教育現場からの教室の要請にもバラつきが見られ、全体的な到達度の向上が難しい。指導員に与えられた時間が非常に限られている為、教育した内容の到達度に不安がある。不定期で教育する場合の幼児の理解度が不透明であり、言葉によっては難しく、理解度は低い印象がある。例：右と左

【対策案】

限られた時間の中で、効果的な教室を心がける。実験(ヘルメット)や体験型教室(模擬道路)を実施する。視覚からも学べる教材を作製し、幼児・児童の理解度に応じた言葉で教育する。言葉でも理解が難しい内容については、手遊び等のリズム学習も取り入れ、教育内容の理解を様々な方法で深める。

【実施上の問題点】

効果的な教育を心がけていても時間的な不足は否めない為、教育現場や父兄に教育内容をシェアする等して反復学習に協力をして貰う必要があり、現場等への負担が懸念される。教室には警察や教育機関、保護者にも協力をして貰う場合も必要な為、普段から連携をとり、協力体制を整えておく必要がある。

【課題 ②】

保護者に対しての教育について

⇒安全意識が低く、親のモラルが子どもの教育の妨げになるケースが見られる。直接的な声掛けや指導が教育現場に対してのクレームに発展するケースもある。保護者に対しての適切な指導が子どもの教育と同時に必要だが、教育の機会はない。

【対策案】

◎直接的なアプローチ

⇒保護者も教室に参加して貰う。保護者に子どもの通学路を通行して貰い、関心を深める。

◎間接的なアプローチ

⇒交通安全教室時に子どもに普段の家庭の様子を聞き、家庭の実態を再認識して貰う。アンケートを実施し、安全意識を高める。

【実施上の問題点】

模範的な交通社会人であるという認識を深めて貰うには、大人であるが故に直接的なアプローチが効果的でない場合が多い。根気強く慎重なアプローチが求められる。

【課題 ③】

自身の役割についての疑問

⇒挨拶や横断歩道の渡り方を指導する事に使命感をもっているが、自分の役割についての周囲との認識に隔たりがあるという印象を受けることがある。

【対策案】

挨拶や見守り等出来る範囲は限られているものの、立哨活動をする自分の立ち居振る舞いから通行者が何かを学んで欲しいと考える為、模範的・意欲的な姿勢を継続的に示していく。

【実施上の問題点】

立哨活動による歩行者や自転車に対しての教育は可能であっても車のドライバーについての教育は不可能である。立哨する人がある程度危険を冒して担っている側面がある。また、指導者の高齢化も否めない。

「幼児・児童の交通安全B」グループ

【課題 ①】

子どもに対してどのように伝えるか

⇒幼児・児童に対しての言葉だけの指導は飽きてしまう。また、言葉だけで理解をしてもらうのは難しい。子どもにわかりやすい伝え方を工夫することが課題となる。

【対策案】

◎合い言葉を決める

⇒合言葉を使用することによって、ポイントを絞りやすく覚えやすい。

◎視覚に訴える

⇒絵本やパネルなどを使って、言葉だけでなく視覚に訴えることで、イメージしやすく伝わりやすくなる。

◎体験させる

⇒横断歩道シートを渡ったり、外に出て実際の道路を歩いたり自転車で走ることで、より理解が深まる。

【実施上の問題点】

- ・合い言葉は地域によって様々で、覚えやすいものもあれば、覚えにくいものもある。より良い合い言葉にするために検討の余地がある。
- ・人数が多くなり規模が大きくなったときに、パネル等が小さくて見づらくなれないか。全員が見えるように死角がないか注意する必要がある。
- ・道路での実技は子どもたちの安全を確保するために、サポートするための人員がかなり必要となる。

【課題 ②】

◎理解が表面だけにならないようにするにはどうすれば良いか

⇒「左右を見る」が、ただ首を左右に振るだけになっていたり、「飛び出さない」ことは分かっているでも飛び出してしまうなど、頭で理解しても安全行動につながらない事がある。

【対策案】

◎左右を見る際に、目標物を決めてあげる

⇒「あの車見て」とかマスコットのぬいぐるみなどを配置することで、しっかり見る行動を促す。

◎車が来るかもしれないと思わせる工夫

⇒「横断実技の際にランダムで信号が変わり、車がやってくる」「キャッチボールしている間を、ボールに当たらないように通る」など外に意識を向けるエクササイズを取り入れる。

- ◎実物に近いものを用いることで、実感を湧かせる。
- ⇒イラスト説明だけでなく、リアルな信号機や標識を用いることで、「見たことある」など実感が湧き記憶に残る。

【実施上の問題点】

- ・室内で行う際は空間がせまくなり、遠くへ意識を向けることが難しい
- ・実技の際にランダムで信号を変えると、実技時間が延びる。人数が多くなると待ち時間が長くなり、子供たちが飽きてしまう。また、キャッチボールも、人数が多いと時間がかかってしまう。先生にお願いして、園での外遊びの際に取り入れてもらうなどの対応が必要
- ・信号機材などを取り扱っている業者はあるが、どうしても値が張ってしまう

【課題 ③】

- ◎保護者・家庭へのアプローチ
- ⇒年に1～数回の指導では、その場限りの学習で終わってしまう。
- その先の学習につなげるには、家庭での取り組みが課題となる。

【対策案】

- ◎保護者にも交通安全教室に参加してもらう
- ⇒家庭での話題にのぼりやすくなる。
- ◎保護者向け指導マニュアルを配布する
- ⇒保護者の安全意識を高める。
- ◎宿題プリントを配布して、園や学校に提出してもらう
- ⇒講習後、宿題プリントや感想文などでアウトプットする。保護者と一緒に考えるような課題を盛り込むことで、家庭で考えるきっかけになる。

【実施上の問題点】

- ・働いている方も多いため、参加が難しい人もいる
- ・指導マニュアルを配布したとして、実際に家庭で取り組んでくれるのか？
- ・学校にお願いする形になるので、学校側の理解と協力が必要

「幼児・児童の交通安全 C」グループ

【課題 ①】

- ◎ヘルメット、チャイルドシートを子供に着用させる保護者が少ない
⇒購入したものの、使っていないというケースが多い。

【対策案】

- ・出産を控えた方向けに産婦人科で説明
- ・新入生向けの説明会で交通安全について啓発
- ・交通事故の負の面だけでなく、対策を行うことのメリットも伝える
(例:子供と手をつないで横断歩道を渡るのは事故を防ぐだけでなく、今しかできない思い出になる。等)

【実施上の問題点】

- ・病院、幼稚園等で保護者を集めて説明会を行う許可をとれるか
- ・説明会を行う会場、人数の確保

【課題 ②】

交通安全教室で啓発しても、早ければその日のうちに内容を忘れられてしまう。

【対策案】

- ・視覚的資料(グラフ、イメージ図など)を効果的に使用する
- ・継続して交通指導を行う

【実施上の問題点】

- ・同じ内容を何度も啓発していると、効果が薄れてくるので、伝え方等に工夫が必要

「幼児・児童の交通安全 D」グループ

【課題 ①】

幼児等指導の際、教材として、DVD 観賞を行うことがあるが、毎年同じ教材を使用することが多く、子供たちが見飽きている。飽きさせない工夫等が必要。

【対策案】

- ・小学 1 年・2 年生向けの DVD が見当たらないが、50 本位の DVD を確保し、毎年被らない工夫をしている
- ・年少・年中組用には、紙芝居やスタッフが作成したフェルトを使っての信号機の模型を作成し、問いかけ、歌を歌いながら指導
- ・小学 1 年生には通学路を利用しながらの指導

【実施上の問題点】

- ・通学路の状況によっては、幹線道路を使用することもあり、警察との連携や信号機の操作も必要
- ・道路状況により、歩道もなく自転車利用者も多く非常に危険
- ・警察、交通指導員、母の会、自治体職員などの関係者と教員との事前の打ち合わせが重要
- ・交通安全教室等により、幼児等へ指導するが、保護者の交通安全認識不足により、相違が生じている
- ・保護者の認識不足を補うため、保護者に対する指導等を行いたいが、コロナ禍により指導機会が難しい
- ・指導する側のスキルアップの工夫が必要

【課題 ②】

コロナ禍による児童向けの自転車の乗り方等の指導等

【対策案】

- ・自転車の乗り方は、体育館で学年毎に実施
- ・ヘルメット着用を指導しているが、体育帽子や不織紙の上から被せ、除菌の徹底
- ・交通安全教室の内容をリーフレット化し配布

「幼児・児童の交通安全 E」グループ

【課題 ①】

教室(講習)の内容が対象者にとって理解できる適切な内容となっているか。

【対策案】

単なる講話よりも、視覚・聴覚に訴えた見せ方がより有効的である。具体的には紙芝居、パネルシアター、人形による寸劇など眼から情報を取り入れさせることに力点を置いた講習を行う。

【実施上の問題点】

紙芝居ひとつ取っても購入にあたってはそれ相応のコストが掛かり、自作するにも相当なノウハウが無ければ、作製困難である。担当者ひとりでも実施できるような演目になるよう知恵を搾る必要がある。

【課題 ②】

講習内容がマンネリズムになって毎回同じような内容になりがちになってはいないか。

【対策案】

他の自治体(団体)が行っている教室の内容を参考にすることで、新たな手法や道具を用いた教室を行うきっかけとなる。

【実施上の問題点】

他の自治体(団体)が実施する教室に立ち会うことはあまりない。(そのため、ほとんど我流＝見よう見まねで実施しがちである)

【課題 ③】

どのような教材を用いれば、より有効な教室と成り得るか。

【対策案】

園児及び低学年児童であれば、紙芝居やパネルシアターといった視覚的に分かりやすい教材を用いる。教室以外の広報としては、幅広い年齢層を対象にできるインターネットの活用(SNSの活用)であったり、園児の保護者に対する広報も有効である。

【実施上の問題点】

公務員には異動が付き物であるが、後任者が迷わずに実施できる引継ぎ体制を確立する必要がある。

- 講義「自転車の安全利用のために」/12月7日(水)10:40～11:50
彦坂 誠（一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 次長）

配布資料:「自転車の安全利用のために」



【なぜ交通違反をする人が絶えない？】

(1)そもそも交通ルールを知らない

⇒これまで何となく、誰にも咎められることなく過ごしてきた。

(2)自身の交通違反が生じる危険性を知らない

⇒自分だけではなく、他人を巻き込むことを知らない。

被害事故は想像できても、加害事故をイメージできない。

(3)これぐらいなら大丈夫と考えている(面倒/個人的な判断)

⇒なぜ交通ルールがあるのか理解していない。

交通他者の予期せぬ行動を意識していない。

→なぜ交通ルールがあるのかを理解させる。交通事故・交通安全を自分事として捉える。

【交通安全教育の例】

- ・座学型…危機予測学習、ヒヤリマップ作成 等
 - ・見学型…スクエアドストレイト、自動車内輪差・制動距離実験等の実験見学
 - ・体験型…自動車運転席での死角体験、技能訓練や法規走行 等
 - ・その他…ポスター等掲示、学校における生徒会活動 等
- 対象に合わせ、手法を検討する。

●問題1「正しいのはどちら？」①発煙筒 ②発炎筒

→ 光を見せるものであるため、②が正解。

●問題2「設置場所はどちら？」①助手席側 ②運転席側

→ 事故時には運転手は焦ってしまうため、助手席の人が使えることが重要。①が正解。

・交通ルールも大切だが、雑学的な話で興味を引き付けることも重要

1. 自転車の交通ルール改正の流れ

- ・歩行者用信号に従い、歩道や横断歩道を通行するスタイルが定着している。当初から自転車の交通ルールはほぼ変わっておらず、車道通行が原則であるが、事故防止の

観点から自転車の歩道通行を良しとする期間が長かったこともあり、自転車利用者の車両意識が薄れてしまった

・自転車利用者に車両意識を取り戻してもらうため、最初の「自転車安全利用五則（2007年）」ができ、2022年に新たな「自転車安全利用五則」がまとめ直された

- ①車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- ②交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- ③夜間はライトを点灯
- ④飲酒運転は禁止
- ⑤ヘルメットを着用

2. 自転車の基本的な交通ルール「自転車安全利用五則」

(1) 自転車安全利用五則

・自転車は、道路交通法上「軽車両」であり、「車」と同じ。よって、自転車に乗るときは、自転車を「運転する」という意識・感覚を持たせることが大切

①五則の1 通行する場所と方法

「車道が原則、左側を通行

歩道は例外、歩行者を優先」

<様々な自転車通行空間>

- ・自動車道：相互通行が可能
- ・普通自転車専用通行帯（自転車レーン）：車道左側を通行
- ・自転車歩行者道：相互通行可能だが、車道寄りを徐行が基本
- ・車道混在（自転車ナビライン）：自転車の通行位置の明示と自動車への注意喚起

<対〇〇速度>

「対歩行者速度」※正面衝突の場合 歩行者(5km/h) + 自転車(25km/h) = 30km/h

「対自動車速度」※左側通行の場合 自動車(50km/h) - 自転車(25km/h) = 25km/h

「対自動車速度」※逆走の場合 自動車(50km/h) + 自転車(25km/h) = 75km/h

車道通行を危険と感じる人は多いが、歩道で歩行者と正面衝突した際の衝撃を考えると、歩道のリスクは大きい。

②五則の2 交差点の通行方法と安全確認の重要性

「交差点では信号と一時停止を守って、安全確認」

- ・交差点横断時、歩行者用信号が青でも右左折車と衝突する危険性がある。自動車のピラーの死角があるので、ドライバーとアイコンタクトをすることが重要
- ・「歩行者・自転車専用」の表示がなくなり、自転車横断帯がなくなっている。自転車がどの信号に従うか、理解している人が少ない。信号機のある交差点では必ず二段階右折する

③五則の 3 夜間の事故防止

「夜間はライトを点灯」

- ・ライト(前照灯)とは
 - 自分の前方の安全確認
 - 自転車の存在を周囲に知らせる

④五則の 4 飲酒運転の根絶

「飲酒運転は禁止」

- ・罰則:5 年以下の懲役または 100 万円以下の罰金(自動車の場合と同じ)

⑤五則の 5 死亡事故 0 を目指して

「ヘルメットを着用」

- ・すべての自転車利用者が対象
- ・最近では、シンプルでおしゃれなものも増えてきている

(2) その他

- ・傘さし・携帯電話・イヤホン等使用運転の禁止。非注意性盲目(見えているが認識できない状態)の問題

3. 自転車運転者講習制度

- ・14 歳以上を対象に、危険な違反行為を 2 回以上繰り返すと講習受講が義務化
- ・受講しなかった場合は罰則がある
- ・違反名だけではなかなか分からないので、絵やイラストをつけて伝えていただきたい

4. 親子乗り自転車(幼児 2 人同乗用自転車)の注意点

- ・子供を乗せたまま自転車から離れない
- ・後席に年長、前席に年少を乗せる
- ・乗せる時は後席→前席、降ろす時は前席→後席の順で
- ・前抱っこは、転倒時ハンドルで子供を怪我させてしまうので非常に危険

5. 電動アシスト自転車の注意点

- ・加速が良いので、周囲の歩行者等との衝突や重い車体に注意する
- ・車体が大きく、急な危険回避がしづらい。事故を起こした場合、車重＋自分の体重＋子供の体重＋荷物等で、100kg 以上のものが約 20km/h で衝突することを理解していただく

6. 自転車事故に備えるための保険

- ・自転車向け損害賠償責任保険・共済には、各種保険等の特約、クレジットカード等の特約、自転車保険等、TS マーク付帯保険などがある。対物補償・弁護士費用特約・示談交渉サービス等が付いているかも確認していただきたい

7. 自転車で事故を起こした時の義務

- ・救護措置義務
- ・危険防止措置義務
- ・報告義務…警察への報告義務。

事故現場から立ち去ってはいけない。義務を怠ると、ひき逃げ事件となる。

●閉講式・主催者挨拶／12月7日(水)11:50～12:00

西村 真弓

(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付 交通安全啓発担当 参事官補佐)

内閣府交通安全啓発担当の西村でございます。令和4年度交通安全指導者養成講座の閉講に当たり、一言御挨拶を申し上げます。受講者の皆様におかれましては、3日間にわたる受講、大変お疲れ様でございました。また、本講座に対しまして、真剣かつ熱心にご参加いただき、主催者を代表して改めて御礼申し上げます。

皆様には、子供や自転車の交通事故防止に関する講義、あるいは話し方や脳トレによる演習、各グループによる討議など、限られた時間内ではありましたが、交通安全指導・活動に必要なプログラムを受講していただきました。近年の交通事故状況を踏まえた交通安全教育に関する理論や、現場における具体的・実践的な手法など、皆様方の今後の活動に少しでも役に立つものがあれば幸いに存じます。

開講初日に、交通事故死者数が減少しているというお話をさせていただきましたが、交通事故というものは、死者数や件数と言うように数字で表れるものです。一方で、交通安全活動というものは、どれだけ努力をしても目に見える効果がすぐに現れるものとは限らず、また、必ずしも直接成果に結びつくものでもありません。それでも交通事故を1件でもなくすためには、地道に継続的に、あらゆる機会を通じて交通安全思想の普及に努めていくことがとても重要であると考えております。

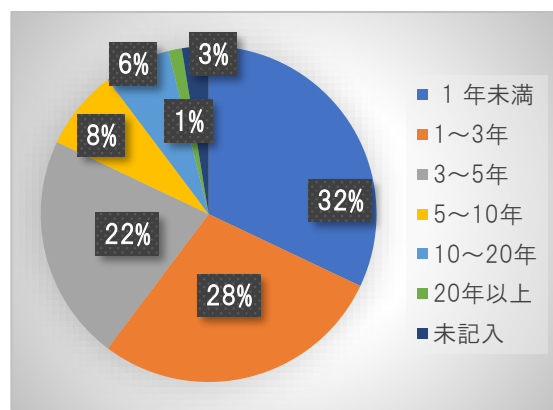
皆様方には、本講座で学んでいただいた理論・手法を地域の交通安全活動の場にお持ち帰りいただき、各地域における交通安全リーダーとして御活躍されるものと信じております。そして、引き続き安全で安心な交通社会の実現に向けて、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本講座の開催に御尽力いただきました関係者の皆様方に改めまして御礼を申し上げますとともに、受講者の皆様の今後の益々の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。3日間に渡る講習、お疲れ様でございました。ありがとうございました。

4. アンケート集計結果

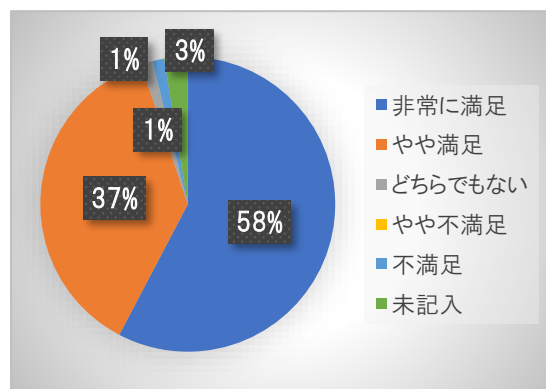
1. 交通安全業務の経験期間をお教えてください。

	人数	割合
1 年未満	25	32%
1～3 年	22	28%
3～5 年	17	22%
5～10 年	6	8%
10～20 年	5	6%
20 年以上	1	1%
未記入	2	3%
合計	78	100%



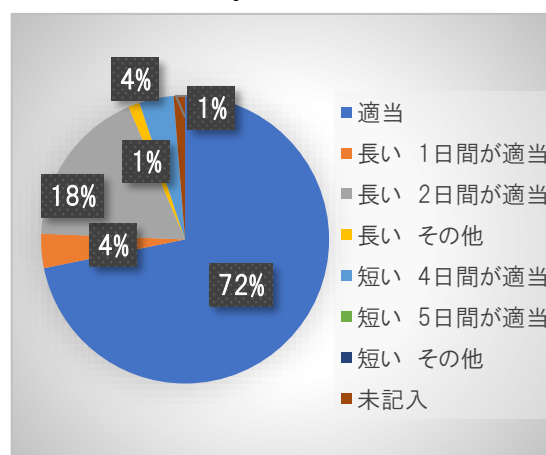
2. 3日間の講座内容はどうでしたか。

	人数	割合
非常に満足	45	58%
やや満足	29	37%
どちらでもない	1	1%
やや不満足	0	0%
不満足	1	1%
未記入	2	3%
合計	78	100%



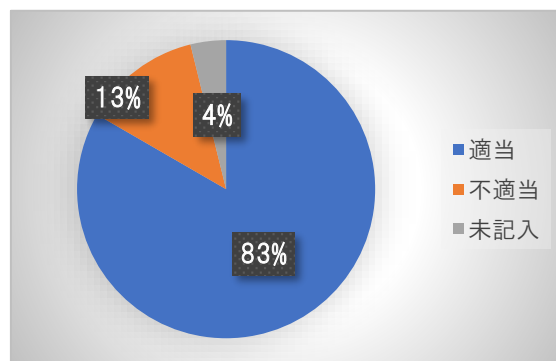
3. 本講座の開催期間：3日間という日程はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	56	72%
長い 1 日間で適当	3	4%
長い 2 日間で適当	14	18%
長い その他	1	1%
短い 4 日間で適当	3	4%
短い 5 日間で適当	0	0%
短い その他	0	0%
未記入	1	1%
合計	78	100%



4. 本講座の開催時期：12月5日～7日という日程はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	65	83%
不適當	10	13%
未記入	3	4%
合計	78	100%



< 適当と思われる理由 >

・色々な教室がひと段落する。職務異動時期前でもあり、学んだ事等を整理して引継ぎやすい。
・安全教室と重ならず、落ち着いて受講することができた。
・私が所属する所では、教室の申し込みが少ない時期になるので、適当かと思いません。
・開催時期は今回の時期で良かったと思います。今の時期、交通教室も少ない時期ですので、今回で良かったと思います。
・秋季の行事が終わり、年末の行事に向けて空いている期間だったため。
・リモート講座だったため、特に移動時に寒い思いをすることもなかった。交通安全教室も特に入っていなかったため、業務に支障はなくできた。
・学校や幼稚園、保育園等の安全教室が比較的少ない時期にあたるため。
・交通指導員も少なくなった時期のため、受講しやすいからです。
・早い段階で開催日のご案内があるので、教室との日程調整が可能なので良いと思います。
・4月より現在の部署に配属となったので、あまりに早い時期だとグループ討議で意見を出すのが難しかったと思うので、12月初旬で良かったと思う。
・安全教室で忙しくない時期だから。
・春、秋の全国交通安全運動期間(準備含む)外であるため。
・交通安全教室が冬は少ないので、とても良いと考えます。
・秋の交通安全運動の後、かつ、年末よりも前であるため。
・この頃は、担当業務の繁忙期ではなく、時間をとることができるため。
・開催時期については、担当業務が落ち着いている時期であるため。
・事前に日程等が分かっていたので、勤務等調整し問題なかった。

・4月から半年以上たち、ある程度周りが分かるようになっていて、年末前で特段忙しいこともない時期のため。
・自身の業務の交通安全教室の依頼が少ない時期なので参加がしやすいため。
・来年度の教室内容を計画する時期なので、学んだことを活用できるため。
・交通安全教室や交通安全運動が少なく落ち着いてくる時期なので。
・日程の連絡を早くいただいたので、他の予定を調整できた。
・年末、新入学、園児等に向けた交通安全教育が強化できるため。
・12月は比較的指導が少ないので参加しやすかった。
・予定があまり詰まらない月であること。
・12月は園の発表会時期と重なり、交通教室を休みにしている園が多く、日程を確保しやすかったため。
・真夏と年末が交通安全活動の活動が少ない時期なので調整しやすい。
・休みがとりやすい。
・最も交通安全教室の要請が少ない時期なのでありがたかったです。
・私のいる所は、教室等がこの時期はあまりないため。
・業務に支障がでない期間だったから。
・2回目と3回目の交通安全教室の間なので、もう少し遅くなってしまうと3回目が始まってしまう。
・子供達も登下校に慣れてきて、任せても安心な時期なため。
・交通安全活動の活動が少なく、落ち着いているため。
・交通安全教室が少ない時期で参加しやすかった。
・交通安全教室に限れば閑散期のため。
・安全教室や講習会の依頼が落ち着いている時期の為。
・4月から交通指導員になった人が何人かいらしたので(自分も含め)、何回か実務経験後で、ちょうど勉強するのに良い時期かと思いました。
・丁度、業務に余裕ができた時期だったため。
・交通教室等、少し落ち着いている時期というのと、学校もイベントが少ない時期のため。
・自分の業務の繁忙期ではなく日程調整しやすかったため。
・比較的仕事に余裕があった時期であったため。また、来年度へ向けて準備するにあたり、適当だと思いました。
・年末の事務処理に係る繁忙期に行われ、また、年末の交通事故防止運動に合わせて学ぶことができるから。
・教室も落ち着いている時期のため。

・時期よりもいかにその日程に合わせられるかの問題なので、とくに不都合ではないと思います。
・業務スケジュール上、無理なく参加できた。
・交通安全教室のない前半時期だったので良かったです。
・私の場合のみですが、入って数ヶ月が経過していたので、交通安全についてや自分自身の課題などが少し分かった頃に講座を受けられたので良かったです。
・大きな行事が終わり、来年度に向けての話し合いが始まる頃なので適当だと思います。
・業務が多忙ではなかったので良かったです。

<不相当と思われる理由>

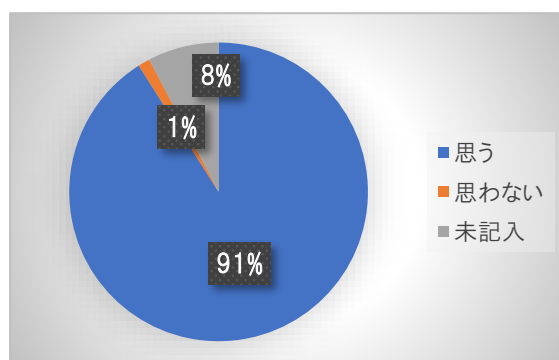
・12月は、園児の交通教室や交通安全運動もあり行事が立て込んでいるため、8月の夏休み期間が良いと思いました。
・12月に行くと年末の交通安全県民運動が近くなり、交通教室などのイベントが重なり、勤務している支部の残りの指導員に負担がかかるから。
・12月は、年末に向けて慌ただしい時期になります。出来ましたら、11月下旬頃を希望します。
・埼玉県で実施している冬の交通事故防止運動期間(12/1～12/14)と時期が重なっているため。
・年末の多忙時期は控えてほしい。
・指導する教室に件数が希望する月の方が少ないため。
・議会会期中であるため。
・11月末～12月中旬までは、幼児に対する交通安全講習が多く、年末の交通安全県民運動の準備で予定が詰まっている。
・12月は何かと忙しいため。
・交通安全教室や啓発活動と重なってしまうため。幼稚園がお休みの期間だと、保育所の安全教室だけで予定が空きやすいので、夏休みもしくは冬休み初め頃だとありがたいです。

<適当と思われる時期(月)>

・8月(3件)	・10～11月	・11月上旬
・11月	・9～11月	・2月
・11月下旬	・8月上旬	

5. 本講座で受講した内容を今後活用したいと思いますか。

	人数	割合
思う	71	91%
思わない	1	1%
未記入	6	8%
合計	78	100%



< 思うと答えた方、今後どのように活用していきたいとお考えでしょうか。 >

・講習内容に反映させていきたい。
・高齢者への指導、自転車教室への実用。
・日頃の立哨、安全教室等に生かしていきます。
・幼児や高齢者向けに活用できる「ブーニャーゲーム」を手遊びとして取り入れたいです。
・今回の受講で、話す際の基本動作やメッセージの伝え方等、今後の交通安全講話に役立てたいと思います。
・自分の講習会の中に取り入れたいと感じた。(話し方等)
・今回学んだ講話内容を現在実施している内容に加え、交通安全教室の受講者に対する話し方、伝え方を改善していきたいと思いました。
・交通安全教室で対象者に合わせて事故状況だったり、話し方を工夫して行いたい。
・実際の安全教室の内容に部分的に取り入れたい。(特に自転車安全利用やいきいき運転講座など)
・効果的な話し方や、導入の仕方など、幼児・児童に話を聞いてもらうやり方がとても勉強になったからです。
・特に、効果的な話し方については、講話の時もですが、ビジネスの場面でも大切なことが沢山あったと思います。
・先生方の講義はとても参考になり、勉強になることがたくさんあった。具体的な導入ゲームの紹介や脳トレなどの実践トレーニング、また交通安全教育を行う上での注意点やポイントなど、また分かりやすい資料も今後の啓発に活用していきたい。
・「いきいき講座」は機会があればやってみたいです。
・グループ討議をさせていただいて、地域によっていろいろな教材があったり、SNS や YouTube を使っていたり、できることから参考にして作ってみたいと思った。

・講話をこれから自分が対象者にしていく中で、子供の特性を理解した上でお話をしたいし歩行訓練でも特性のことを考えて指導したい。
・効果的な広報・啓発に活用していきたい。
・市民への講習会等。
・話し方や例話をつくってもいいとの事。話を沢山つくりたいと考えました。
・幼児から高齢者まで分かりやすい話し方、進行(組み立て方)教材研究に活用していきたいと思います。
・他団体の取り組みを参考にする。
・事故をすると痛いし、お友達もお父さんもお母さんもみんなみんなずっと辛いよ、苦しいよって伝えたい。
・DVDの視聴と、警察官から講話だけでなく、指導員の一人として、分かりやすい話し方ができたらと思う。
・指導内容だけでなく、自分の視線や話し方にも気を付けていきたいと思った。また、言葉だけでなく、教材や資料を使い、目から伝わる情報を活用していきたい。
・グループ討議は、他の自治体の取り組み内容を知ることができて、とても勉強になった。その他の講義内容もとても参考になった。
・交通安全活動(広報啓発)等に活用したいと思う。
・今後、各種交通安全教室(幼稚園、保育所、小学校等)で活用したい。
・多くを伝えなくても良い。対話形式も取り入れ、帰宅後にも残る内容となるよう、交通安全教室の内容や方法を工夫する必要があると思う。
・グループ討議で、様々な地域の現状や工夫していることを聞けたり、悩んでいることを共有し、解決のために意見を出し合えて、とても良い時間だった。こうした意見を活用して業務を行いたい。また、子供の特性或発達心理を学べて良かった。教室で特性を理解した指導をできるよう、努力したい。
・講話するときの技法を取り入れたり、「自転車を安全に利用するために」など、より具体的に伝えられるように講義の内容を教室に取り入れようと思います。
・他市さんの取り組みや交通教室の手法等を参考にさせていただく。
・交通安全教室では、より一層子供の気持ちに寄り添えるように努力したいと思った。
・交通安全教室の内容や伝え方を見直し、より効果的な啓発活動を行えるようにしたい。
・講座等で受講者に考えてほしいときなど、また、幼児の講座等でも本講座で学んだ事を生かしたい。
・グループ討議で、皆さんから伺った意見を参考に交通安全教室で活用してみたいと考えています。また、講義を受けて学んだことを地域の交通安全に生かしていけるよう準備していこうと思います。

・印象を与える表情や話し口調などに気を付けながら、交通安全講話を行っていき たい。
・他団体様の活動を参考にして今後の指導に生かしていきたいです。
・交通安全の指導を行う上で必要とされる知識等を得られるため。
・自転車安全教室や幼児教室にて活用していく。
・教室での話し方を見直していこうと思う。
・幼児交通教室や保護者向けの教室等で、実践できる内容や講話が多く参考にして いきたい。
・業務上、交通安全教室等に参加する機会はないが、街頭での交通安全キャンペ ーン等で市民の方と接する際に念頭に置きたい。
・表現方法やコンテンツなど、自分たちの活動に取り入れてみようと思います。子供 の特性や交通参加者の心理など、コンテンツ作りの際に役立つ話が多かったです。
・まず指導員会で報告。特に「いきいき運転講座」をダウンロードして指導員にシェア したい。
・講座で勉強したことを指導会で発表していきたいと思います。
・交通安全教室等でお話していきたい。
・効果的な話し方、幼児の特性など今後の講習の参考にさせていただき、いきいき 講座の脳トレや話の構成は今度の講習で使用させていただきます。
・今後の交通安全教育の内容や質をあげるために活用していきたいです。
・他市の交通安全教室の内容を聞いたので、自分たちの教室にも取り入れていき たい。
・子供の接し方に気を付けるなど、職場の方にもシェアしてみんなで気をつけてい きたいです。
・今回得た知識や発見を、現在実施している交通安全教育に取り入れたい。受講者 からの質疑応答の際の参考になった。
・効果的な話し方を実践し、幼児・児童・高齢者に合わせた対応や、高齢者教室で の新しい内容も参考にしたい。また、幼児の特性を理解し、飛び出しを防ぐための効 果的な伝え方などを活用したい。
・ロジックツリーを使用してみたい。
・知識として持っておき、対象者や講習内容に合わせて伝えていきたい。
・色々活用したいと思いました。効果的な話し方、デモの導入、子供の心理学な ど、積極的に開催教室の中で活用していきたいと思います。
・交通安全教室で活用していきたい。
・交通教室での話し方や視点法など、すぐ実践してみたい内容が多かったから です。

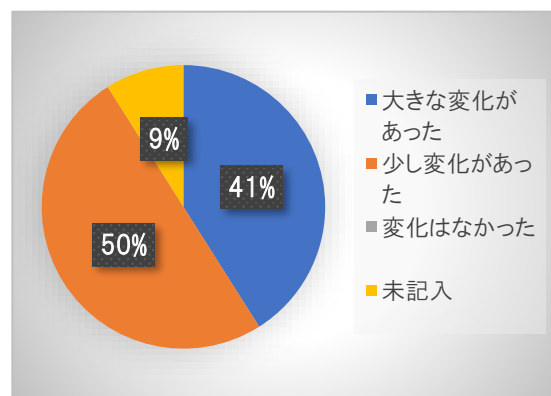
・交通安全啓発の資料作成等で、今回学んだ世代ごとの特性を織り込むなどして活用していきたい。
・交通安全教室等の講習。
・交通安全講話。
・座学やグループワークで学んだことが沢山あったので、今後の交通安全教室での講話等に取り入れていきたいと思います。
・交通安全指導や啓発の時等の話し方、自転車に乗る時のルール。
・交通安全の意識を皆さんに解りやすく説明していけば、自ずと交通事故の加害者も被害者も減らしていけると思います。
・小学生・高齢者の交通安全教室などで。
・教室での話し方を活用したい。
・「交通安全指導における効果的な話し方」での、視点法や表情や所作にも注意して、今後活用していきたいと思います。
・私は今回、「生徒・園児に分かりやすい説明の仕方」が目標でしたので、講義①を交通安全教室で取り入れます。
・色々な方の意見が聞けたので今度使っていきたいです。
・課内で共有したい。
・年に一度は、講座を勉強して活動を努めてまいりたいと思います。
・適切な話し方については、とても奥深く興味深かったです。
・小学校での安全教室にて、言葉の使い方・伝え方・手法等活用していきたい。

< 思わないと回答した理由 >

- ・活用する機会がない。

6. 本講座を受講して、意識に変化はありましたか。

	人数	割合
大きな変化があった	32	41%
少し変化があった	39	50%
変化はなかった	0	0%
未記入	7	9%
合計	78	100%



<「大きな変化があった」と回答した理由>

<p>・本職自身の交通知識が不確かであると認識できたこと。</p>
<p>・事故を防ぐことへの意識。自分自身 3 度ほど、自転車で事故に遭ったが、今は元氣な為、軽く考えていたように思う。被害者、加害者共に辛い事を改めて認識しました。</p>
<p>・同じ指導する立場の方と討議していく中で、一回一回の講習会の重要度を改めて意識することができた。</p>
<p>・講師の方々の話を聞いて、幼児や高齢者の心理や傾向を知ることができ、自分の中で多くの気付きがあったからです。</p>
<p>・いろいろな講義を受講したことで、指導に幅ができ効果的な指導ができると思いました。</p>
<p>・幼児の特性を知って、講話だけでなく、歩行訓練の時にこのように指導した方が良い(例えば、子供は視野が狭いので、この場所では上に一時停止の標識があるのでしっかり止まって見てね、など)ということを知れて、そうやった方が子供は分かりやすいと知った。これからは子供の特性も理解した上で、講話や歩行訓練の指導をしていきたい。</p>
<p>・他県の方の話聞くことにより、工夫が必要であることが分かった。心理学の先生の話聞いて、日本の安全教育も変化が必要だと感じ、より時間をかけ、早い段階からの教育の必要性を感じた。</p>
<p>・他団体の方の話聞き、今までと違う視点を持つことができた。</p>
<p>・絶対に事故をなくしたい。「少なくする」のが目的だったのが、「なくす」になりました。自分の力では、どうにもならないと思っていましたが、絶対に事故をなくしたいです。</p>
<p>・他の地域での取り組み方を知る機会となりました。幼児の交通指導の難しさを、努力と工夫と本人のスキルで行う姿勢はとても感心しました。</p>
<p>・交通安全教室や、立哨、啓発等を行っても効果が出ているのか不安があったり、変わっていない、変わらないと感じていた。でも、まだ工夫できることがたくさんあることや、皆さんの悩みを感じながら頑張られていたので励みになった。</p>
<p>・抱えていた問題点が明確になった。受講で得た内容をブラッシュアップしてより良い指導ができるようにしたいと感じた。</p>
<p>・子供に伝わるように努力したりテクニックを得ようと思っていたが、なぜ、交通安全が大切なのか考えさせられた。</p>
<p>・交通安全指導の在り方。幼児・児童への言葉での指導方法、また道具を使っでの指導の仕方などを実践できることから挑戦してみたい。</p>
<p>・話し方、伝え方によって同じ内容でも理解されにくいことが分かりました。また、常に主役は受講者だと意識していきたいです。</p>

<p>・各講師からたくさんのことを学べた。講義又動画、意見等。</p>
<p>・交通安全業務に携わってから日が浅く、交通安全指導の経験もほぼなかったため、専門的な講話や、他の参加者との討議で他地域の実情を聞くことができ非常に勉強になった。</p>
<p>・これまで感覚で行っていた表現・伝達手法が理論的に整理され、よりよいコンテンツ作りのベースができた気がします。また、グループ討議を通じて、同じように悩み工夫されていることを知り、周りと協力してできることがもっとあるのではないかと思うようになりました。</p>
<p>・今までより、知識も増えましたし、交通事故防止活動への意欲が高まりました。幼児、高齢者の行動の傾向を知ることができたので今後の参考になりました。</p>
<p>・私たちがやっている活動以外にも様々な効果的な手法があり活用していきたいと考えたため。</p>
<p>・PDCA サイクルが自分だけで完結していたので、外部から情報提供してもらい、視野が広がった。</p>
<p>・交通安全教育者として、改めて身の引き締まる思いでした。</p>
<p>・新しい言葉を多く学びましたし、分野のスペシャリストの話が聞けて意識が高まりました。</p>
<p>・専門講師による講義・映像によって、現実味が増えた。</p>
<p>・多彩なスキルや内容を見聞きし、また全国の交通指導員の方々の生の声を聞き、とても良い刺激を受けました。交通指導員として、もっと勉強し、良い教室を開催したいという意欲がわきました。</p>
<p>・専門の先生の講義や受講者とのディスカッションで交通安全教育の重要性を改めて感じたため。</p>
<p>・交通安全指導は交通事故減少に対して即効性はないが、世代の特性を踏まえて効果的に伝えていくことで、長い目で見て確実に意識の向上につながると感じた。</p>
<p>・他の地域の方の意見や活動をきくことができ、参考になった。もっと知識を増やす必要があると考えた。</p>
<p>・私の住んでいる市でももっと分かりやすい教室が必要だと感じ、もっと何かしなくてはと思いました。</p>
<p>・講義一つ一つが素晴らしいもので、書ききることはできませんが、一言でいうなら、指導員としての役割を今一度見返すことができたと思います。</p>
<p>・一人でも交通事故に遭わないように注意喚起する。</p>

<「少し変化があった」と回答した理由>

<p>・指導歴 2 年目で知識が足りない所があった。</p>

<p>・知っていたこともありましたが、改めて説明されると納得につながりました。</p>
<p>・交通安全教室に直結する訳ではありませんが、海外との比較のグラフ等、今まで見たことのない統計を交えての講話はためになりました。</p>
<p>・講話の場数を増やして、自信をもって講話をしたいと思いました。</p>
<p>・改めて交通事故の悲惨さを思い知らされた。そのため、より多くの人に交通事故防止、交通事故の悲惨さを伝えていきたい。</p>
<p>・指導員 1 年目なので学ばせていただくことが多かったです。日々の指導の中で活かしていけたらと思います。</p>
<p>・まだまだ勉強中なこともあり、今回の講座で初めて知ったことがたくさんあった。また、グループ討議では、全国で活動されている方々の生のお話を聞くことができ、悩みの共有や地域差などを知るなど良い機会となった。</p>
<p>・各分野の講師の方々から、多くの知識を得ることができたため。</p>
<p>・交通安全に関する理解が深まった。</p>
<p>・コロナ禍に入り、以前とは違った環境での教室開催を考えなければならなくなり、他はどんな教室にしているか、どんな形で啓発しているのか、話を聞いたり、見たりしたいと思っていました。講話の要点となることや導入、話の組み立てを考え、引き出しを多くし、子供から大人まで対応できるようにしていこうと思います。</p>
<p>・条例など知識をただ伝えるだけでなく、参加者が自分で考えて行動がとれるように指導していきたい。</p>
<p>・効果的な話し方については、とても勉強になった。論点整理や発言の際には、ロジックツリーを思い浮かべながら実践したいと思う。</p>
<p>・事務担当者や現場で安全教育を担当している方など、自県にはない取り組み内容を聞け、今後の業務に参考となる意見などを聞くことができた。(ディスカッション)</p>
<p>・全国の都道府県からの参加により、各自治体等の交通安全啓発活動、取り組み等が分かり今後の参考になった。</p>
<p>・「やらされている」から「自分でする」に気持ちを変化させることが必要と、今更ながら思ったし、全国的に同じような仕事をしている人がいることがよくわかった。</p>
<p>・交通事故被害者の体験談をきき、事故の悲惨さを改めて感じました。</p>
<p>・交通犯罪被害者のお話や交通違反、それに伴う事故の映像を見てより一層、交通安全の啓発に力を入れる必要があると考えるきっかけになったから。</p>
<p>・従来は一方的な講座ばかりと思っていたが、受講者にも考える機会を与えることができる気が付いたので。</p>
<p>・聞いている人が参加している意識が高まり、考えてもらえる、意見がもらえるような教室内容のヒントをたくさんいただけたので、実践に活かしたいと思ったため。</p>

<p>・今までの自分を振り返る良い機会となり、プラスでこれから実践していきたい点も多く発見することができたため。</p>
<p>・警察の方が行った幼児向け講座を受け、初心に戻った。</p>
<p>・今まで作った教材よりもさらに工夫したものを作っていきたいと思った。</p>
<p>・他市町村の方(それも全国の方)とのグループ討議で、新たな発見や色々な問題点が見つかったことなど。</p>
<p>・特に自転車ワークや自転車講座で知識が深まり、認識間違いなどがよくわかった。小学校での自転車教室でわかるように伝えたいと思う。</p>
<p>・気が付いていないことがありましたので、良い勉強になりましたので子供たちに教えていきたいです。</p>
<p>・グループ討議で全国の地域の指導員さんとのディスカッションが良かった。地域によつての取り組みも違うので、できそうな事は取り入れたい...等、意識向上に繋がった。</p>
<p>・グループ討議により、熱い思いのある方々と同一の目標に向かって話し合うことができたため。</p>
<p>・「交通被害者支援について」の講義を受講し、交通ルールを守るだけでなく、交通事故の怖さや家族の深い悲しみなども伝えていかなければと意識が変わった。</p>
<p>・自分と同じように強い気持ちを持って子供の命を守ろうとしている方と交流でき自信になった。</p>
<p>・悩んでいたことが少し解消されたので、今回学んだことを活用して、また頑張っていこうという気持ちになりました。</p>
<p>・常に交通事故を防ぐために、どのように指導すれば良いかを考えながら資料を作ったりしているので、また色々な知識を得ることができたため、さらに頑張っていこうと思います。</p>
<p>・基本的な知識やデータなどについては、既知のものだったが、各事象における交通安全に対する考え方などについては、ビデオによる実際の様子の視聴や他県との意見交換の中で、変化が生じた部分はあった。</p>
<p>・今後はいただいた時間を有効かつ効果的な安全講話をしていかなければならない。</p>
<p>・交通安全への意識がさらに高まりました。道路交通法について、まだまだ勉強不足だと実感しました。</p>
<p>・今まで人に教えるという意識はありませんでしたが、これから経験を積んでいければそれが自信になると思います。</p>
<p>・交通指導の基本がわかったような気がする。</p>
<p>・他府県の方のやり方などの参考になった。</p>

・各県の方々の意欲・熱心さを感じる事ができた。
・一時停止の映像等。

7. どの講義が役に立ちましたか。(複数回答可) *敬称略

講義名	人数
①「交通安全指導における効果的な話し方」(藤原徳子)	46
②「交通事故被害者支援について」(中土美砂)	35
③「交通安全教育デモンストレーション」(警視庁交通部交通総務課)	27
④「子供の交通安全教育について」(山口直範)	53
⑤「いきいき運転講座」(池田佳代)	38
⑥「自転車の安全利用のために」(彦坂誠)	39
未記入	7
合計	245

8. 具体的にどんな点が役に立ちましたか。感想等ご自由にご記入ください。

・受講者の年齢毎の口調等が参考になりました。(講義①に対して)
・特に園児向け講習に活かせる内容でした。(講義③、④に対して)
・自ら誤解していた法規を改めることができた。(講義⑥に対して)
・話し方1つで受け手の気持ちが変わる事。
・高齢者への教室のマンネリ化から一助。
・自転車のルールが理解できていなかったのが理解できた。
・安全に対する意識が変わりました。(講義②に対して)
・目からウロコが落ちました。思い当たる事が多く、参考にします。(講義④に対して)
・交通事故に遭わないために注意しましょう、と指導をしてきましたが、事故に遭ってしまったらどうなるのか?と、その先の話をついたのは初めてで、実際に家族失った方の貴重な話が聞けたのが驚きでした。直接役立てるのは難しいですが、知識として刻んでおきたいです。(講義②に対して)
・話す際の基本動作やメッセージの伝え方、褒めながらの指導方法等が勉強になりました。
・話し方、言葉選び等、知っていた事の再確認と新しく知ることができたものがあった。(講義①に対して)
・実際の事故の話聞くことで、交通事故の悲惨さや遺族の方の悲しみを感じることができた。自分の活動をより強化しなければならないと感じた。(講義②に対して)
・新しく知ることができた知識が多く、講話や活動に役立てると感じた。(講義⑥に対して)

<p>・対象に合わせた適切な話し方、伝え方、交通教室の効果的な構成について今後活かしていきたいと思いました。(講義①に対して)</p>
<p>・高齢者に対する交通教室の新たな講習内容、方法を学ぶことができ、今後取り入れていきたいと思いました。(講義⑤に対して)</p>
<p>・自転車の交通ルールを再確認するとともに、様々なルールの意味を知ることができました。(講義⑥に対して)</p>
<p>・事故の被害にあわれた方の話を聞く機会がなかったので参考になった。(講義②に対して)</p>
<p>・子供の特性を知り、理解したうえでの指導というところが参考になった。(講義④に対して)</p>
<p>・実際の道路で見る交差点の通行方法が良い例、悪い例をアニメーション見せてもらい参考になった。(講義⑥に対して)</p>
<p>・講義の組み立て方、思考整理術など具体的ですぐに利用したいと思えた。(講義①に対して)</p>
<p>・実際の被害者家族の話を聞いたことが想像だけでは分からない声だった。(講義②に対して)</p>
<p>・子供はなぜ道路に飛び出すのか等わかりやすく、幼児の保護者にも伝えたいと思います。(講義④に対して)</p>
<p>・部分的に教室にすぐに取り入れたい内容が多くあった。(講義⑤に対して)</p>
<p>・とても分かりやすくすぐに教室に取り入れたい内容が多くあった。(講義⑥に対して)</p>
<p>・「子供の交通安全教育について」は子供の特性がとてもよくわかりました。</p>
<p>・「いきいき運転講座」では、高齢者の講習の仕方や講習内容の知識が増えて役立てたいと思います。</p>
<p>・藤原先生の講話の中で、能力・意欲の話の中に「知」「技」「経」を積み上げること。今回講座で学んだ事は、この3点に繋がるといいますので、交通安全指導に活かしていけたらと思います。</p>
<p>・話し方については、交通指導の場面に限らず、コミュニケーションしていく上でとても参考になるお話だった。デモンストレーションは、ブーニャーゲームは子供だけでなく高齢者にも楽しんでもらえそうだなと思った。うっきーくんのような可愛いマスコットキャラがいると場も和み、子供にも話を聞いてもらいやすいだろうなと感じた。幼児に自分で危険を考えさせることの大切さの話が印象に残った。自転車については、いただいた資料がとても見やすく分かりやすく、今後、啓発チラシを作成する際の参考になりました。</p>
<p>・相手に分かりやすく伝えるために順序だって話すこと。</p>
<p>・子供、高齢者の特性を生かした安全教室をすること。</p>

<p>・交通教室をこれからしていく中で、幼児に対しての導入でのゲームや自転車安全利用五則や自転車の通る道(自転車専用通行帯等や車道混在(自転車ナビライン)など)について、新しく学んだり、分からないことを知れたので。どんどん活用していきたいと思いました。また、各グループ討議の際には、他の地域のやり方や教材も知れたので、できるものは作ってみたいと思いました。</p>
<p>・実際に安全教室等を行うときに、気を付けるべき点等が分かりやすく説明されていたところ。</p>
<p>・「交通事故被害者支援について」中土さんのお話を聞いて、つらい体験をお話してください、ありがたく、身に沁みました。被害者にも加害者にもならないように、子供から大人までの交通教育がとても大切である事、それを広める行動力や支援が必要と考えました。子供の命よりも大切なものはない！(講義②に対して)</p>
<p>・能動的な交通安全学習が大切。お母さんに目隠しているとちゃんとできている。他者からやらせているではダメ。大人や友達といると、警戒心が乏しくなる。(講義④に対して)</p>
<p>・正に「3つ子の魂百まで」親が小さいうちに体験させる(躰)は大きいと感じます。大人の意識を高めるアプローチが必要になっていくので、保護者の参加の呼びかけや保護者向けのリーフレットを通して親も子も関心を持っていけるよう努めなければならぬと思いました。啓発活動の場の事例で就学児前説明会会場や病院で開催している自治体があり興味深かったです。</p>
<p>・現行のルールの確認を分かりやすく話してもらえたため。</p>
<p>・ここに書ききれないくらい全部。子供を守っていきたいという気持ちの方が全国にいっぱいいることがすごく嬉しかった。怒る人じゃなくて守りたいという気持ちがいっぱいで嬉しかったです。</p>
<p>・街頭指導中、危険を察知して声がけをするときに活用していこうと思います。交通事故がもたらす、被害者の話は、大変身に詰まされ、事故なしを目指して、自分自身の戒めを込めて、より一層努力を心がけていきます。</p>
<p>・実際にお子様を亡くされた中土様の話は、心に刺さりました。交通事故で亡くなる方が一人でも減るよう、改めてしっかり活動していきたいと思いました。</p>
<p>・子供の交通安全教育については、視線の高さや教え方、接し方など指導の場面だけでなく、生活の中でも参考になるものだった。</p>
<p>・「子供の交通安全教育」の山口教授の講義にでた、子供の特性(視野が狭い)について、今までは子供は単純に注意が散漫のため交通事故に遭いやすいと思っていた。子供の特性を理解し、安全対策に生かしたいと思う。</p>
<p>・各講師の資料、話し方、時間の使い方等、今後の参考になった。特に、「いきいき運転講座」が講習参加者全員に意見を発言させる方法がとても良かった。</p>

<p>・子供と大人の視界の違い、被害者の気持ち、他、それぞれに残る内容があったので、今回の資料を大切に、時々見直すようにしたいと思います。</p>
<p>・例話を用いること、ロジックツリーのフレームワーク。(講義①に対して)</p>
<p>・導入や教室の実践が見られたこと。(講義③に対して)</p>
<p>・子供の発達心理学を学べたこと。心理を活かした指導法を学べたこと。(講義④に対して)</p>
<p>・新しい自転車五則について学べたこと。(講義⑥に対して)</p>
<p>・安全教室で講話等を行う際に、実践にすぐに取り入れられる内容でしたのでとても参考になりました。</p>
<p>・子供の特性や他国の事例等、大変参考になった。自転車の交通教室について再検討する必要があると認識できた。(講義④に対して)</p>
<p>・自転車の交通ルールをととても分かりやすく説明いただいた。今後の交通教室や交通安全運動でも活用できそうな資料を提示していただいた。(講義⑥に対して)</p>
<p>・滉太君の話を聞いて、交通事故で悲しい思いをする人がいない世の中になればいいと思った。その手助けをできる今の仕事に真摯に向き合っていきたいと思った。楽しいだけの教室ではなく、命を守る勉強なのだと肝に銘じ努力したい。</p>
<p>・市内小学校や幼稚園で交通安全教室を行っており、今回の講義で学んだ伝わりやすい話し方や子供の心理、行動などについて今後の交通安全で活かせるものが多いと感じた。</p>
<p>・講習の具体的な進め方を示してくれた点。</p>
<p>・身近に事故に遭われた方への配慮や声のかけ方について学ばせていただくことができました。(講義②に対して)</p>
<p>・導入の方法として、現在行っているものと違うのを教えていただいたので、今後活用したいと思います。(講義③に対して)</p>
<p>・具体的なビデオを見ることによって、振り返ることができるという点、先生のテンポのよい進め方。(講義⑤に対して)</p>
<p>・道路交通法や新五則について、図や映像を用いながら、大変分かりやすく説明いただき、確認することができました。ぜひ、地域の皆さんにもお伝えしたいと思います。(講義⑥に対して)</p>
<p>・自分の指導はどうかを見直すいい機会となりました。表情に気をつけること、話し方などにも注意を払ってこれからの活動につなげていきたいと思いました。</p>
<p>・話すときの心得。講義内容のように今まで自分は、児童に対し又高齢者の方々に丁寧な言葉や依頼系の言葉で話をしていたらどうか、今後話すときの心得として学んだことを活用していきたいと思っています。(講義①に対して)</p>

<p>・自分の予想していた数値よりも、歩行中の子供の事故の多さに驚きました。特に 10 歳までの子供が事故に遭遇している数値を見ると、幼児の時から交通行動を指導すべきだなと感じました。そこには保護者も同時に学んでもらうことが最も大切なのかなと感じました。(講義④に対して)</p>
<p>・すべての講座がとても勉強になりました。特に、自転車安全利用五則が新しくなったので詳しく聞くことができ良かったです。また、いきいき運転講座のおためしセットも是非活用していきたいです。</p>
<p>・交通安全の指導を(各教室)する際に理解できたことを現場で役立てていきたい。また、グループ討議では、参加者の各地域の方々のいろいろな意見が聞けて大変勉強になりました。</p>
<p>・実際に事故に遭われた方の声を生で聞かせてもらい心に響いた。(講義②に対して)</p>
<p>・警察の方が行っているのを見て、子供の心理をよく理解し、よくできた内容であると思った。今後の自分たちのやっている教室にも役立つように思えた。</p>
<p>・幼児に左右の確認の指導をするときには、体ごと左右に動かして確認する仕方を教えていこうと思った。</p>
<p>・実際の教室や講座に参加できたのが非常に参考になった。また、山口先生の話は、幼児教育に実際に携わった事もあり、とても興味深い話だった。彦坂先生の話も、新しい利用五則について学べ、知りたかった事が多かった。</p>
<p>・海外の事例等も含めて、適切な年齢で適切な交通教育を受けることの大切さ、現状の日本の交通教育では真に効果を得られていないかもしれないことなど、新たな視点で交通安全教育を学ぶ事ができた。(講義④に対して)</p>
<p>・地域柄、高齢ドライバーの方が多いため、このような講座があることを知る事ができとても有用だった。(講義⑤に対して)</p>
<p>・こちらの発信したことが相手にとってどのように伝わるか、どうしたら伝わりやすくなるのか、より深く考えることができました。また、後進の指導の際にも役立つと思います。(講義①に対して)</p>
<p>・「事故は自分だけでなく、相手を傷つけてしまう可能性がある」ということをこれまで教室で話していましたが、相手を傷つけることがどういうことなのか実感しました。自分の活動のモチベーションにもなりました。(講義②に対して)</p>
<p>・これまで曖昧だった自転車の乗り方が、具体例と共によく理解することができました。もっと様々なお話を伺いたいと思いました。(講義⑥に対して)</p>
<p>・全国様々な活動があることを知った。実践に役立つことばかりであった。</p>
<p>・自転車安全利用五則の改正。(講義⑥に対して)</p>
<p>・中土様の生命のメッセージは涙が出て自分のことのように感じました。(講義②に対して)</p>

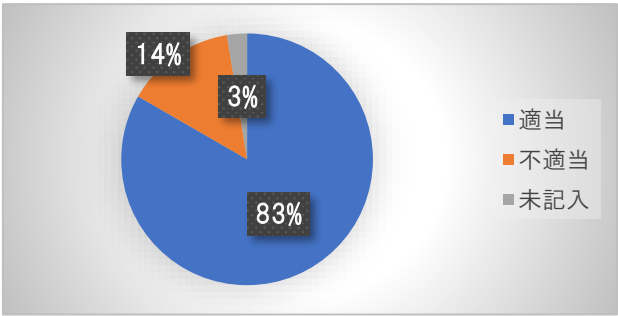
・池田先生の熱心な講座に感動しました。(講義⑤に対して)
・自分にも子供がおり、子供の頃からの交通安全に対しての教えや意識を高めてもらうことの大切さが理解できました。
・中土先生のお話は涙がでました。
・山口先生の子供の発達心理学等にも興味がわき、交通安全教室の際には活用したいと思います。
・実際に交通事故の被害にあわれた方の話をきくことが初めてだったので、理解しているようで本当は分かっていなかった事故の悲惨さが感じられ、より、安全について考えることができました。
・山口先生の講義では、今まで調べようともしていなかった外国の交通安全を知ることができて良かったです。
・自転車については、最近 TV でも特集されることが増え、周囲からルールについて聞かれることも多くなっていたので、色々教えていただけて勉強になりました。
・まだ指導員を初めて日が浅いため、相手に伝わるような話し方を学べたので、今後の交通安全教室でいかすことができると感じました。
・講話を行うので話し方は非常に勉強になりました。
・効果的な話し方の講座を聞いて、言いたいことの整理の方法を知ることができ、これから誰かに伝える時に迷いがなく話す事ができそうです。
・お話が面白かったですし、しっかりと交通安全教育も理解できました。子供のことを理解していたつもりでしたが、新たに発達の特性について学ぶことができました。
・当事者のリアルな声・思い・心情がガツンと胸に突き刺さり、他人事ではなく自分も当事者になり得ると、改めて感じました。(講義②に対して)
・物腰の柔らかな口調で、とても聞きやすかった。グレーゾーンに関する質疑に対する答え方、危険動画を流す際の気遣い・配慮、知識が豊富な所等、もっと講義を聞きたかった。(講義⑥に対して)
・教室を進行する上で、一番大切な話し方の指導がとても参考になり、ぜひ実践したいと思った。(講義①に対して)
・心に迫るものがあり、交通安全を伝える立場としての責任の重さを感じた。(講義②に対して)
・着ぐるみ、腹話術や教室の導入部分など、子供たちが楽しみながら交通ルールを学ぶための工夫が参考になった。(講義③に対して)
・子供がなぜ道路に飛び出すのかを発達心理学の視点から指導を受けた。春から1年生になる年長児対象の教室で活用したい。(講義④に対して)
・ワンパターンになりがちな高齢者教室で活用を検討したい。(講義⑤に対して)

<p>・11月から変更になった「自転車安全五則」について詳しい説明があり、来年度の自転車教室で参考にしたい。(講義⑥に対して)</p>
<p>・デモンストレーションについては、警察の方のデモンストレーションが見られたのでとても嬉しかったです。</p>
<p>・中土先生のお話を聞いて、被害者「支援」とはということが良く分かりました。交通安全を呼びかけてはいますが、被害者の方と深く関わる事がないので知ることができてよかったですと思います。</p>
<p>・池田先生のお話では、高齢者向けにどう講習すればよいか、具体的に聞くことができ勉強になりました。毎回、同じような内容になってしまっていたので、次回からは参加型の内容になるよう工夫していきたいと思います。</p>
<p>・全部の講義が本当に勉強になりました。</p>
<p>・山口先生のお話がわかりやすく、また、交通安全と心理学の内容が、非常に面白かったです。一方的に知識を押し付けるのではなく、子供達自身に学ぶ機会を与えるという言葉遣いが印象に残りました。今後の教室の中でも、子供達が考える時間とこのを考えながら開催していきたいと思いました。</p>
<p>・「いきいき講座」は実践が楽しく、ぜひ安全教室に取り入れるべきだと感じました。</p>
<p>・今年から交通安全教室の講師をすることになり、基本もよく分からない状態であったが、話し方から対象の特性、教室のデモンストレーションまで見せてもらい勉強になった。</p>
<p>・いきいき運転講座は、過去にも受講済みであったが、再確認できた。</p>
<p>・交通事故にあうということは本当に辛い悲しいことだということを再認識しました。そのことを踏まえて、交通指導でどこまで伝えられるか難しい所ですが、やはり保護者の皆さんの意識を変えていかなければ日々の指導を伝わらないのではと思いました。</p>
<p>・「交通事故被害者支援について」の講座の中で、実際に交通事故でお子さんを亡くされた講師の話を知り、胸が締め付けられるような思いだった。被害者の喪失感は決してなくなるものではなく、そうした悲しい事故を減らすためにも地道に交通安全啓発していくことが大事だと感じた。</p>
<p>・自転車の交通ルールに関しては、標識や道路状況に応じて正しい走り方が変化していくのでしっかり理解し周知していきたい。</p>
<p>・人に伝えるための手法。(講義①に対して)</p>
<p>・交通教室で伝える知識。(講義④、⑥に対して)</p>
<p>・実際に交通事故により、家族を亡くされた方からの生の声を聞くことは中々ないため、貴重な体験ができた。また、子供の交通安全教育については、学術的な観点か</p>

ら交通安全という問題を紐解き、なるほどと気付かされる事や、そうだったのかと新たに学ぶ場面があり、今後の業務に役立ちそうだと考えた。
・効果的な話し方にはある方程式があること。
・一方的な講話ではなく、高齢者に考えさせる、発言させる等の小集団活動の導入を今後の講話に活かしていく。
・特に「自転車の安全利用のために」は非常に勉強になりました。自転車は、「歩行者・自転車専用」と表示されていても車道を走行する場合には、車両用信号に従うものだと思っていました。その他にも、正しい知識を取り入れることができました。
・今まで免許の更新の時にもらう小冊子でしか見た事はありませんでした。今回このような機会を得ることができたので、これから少しずつ吸収して活動に活かしていきたいです。
・話す内容を整理してまとめて分かりやすく話す。
・交通安全の知識、効果的に話すための準備は大切である。(講義①に対して)
・高齢者向けの教材を利用していきたいと思いました。(講義⑤に対して)
・自転車安全利用五則の改正で、自転車事故が少しでも減るよう指導していきたい。(講義⑥に対して)
・自分自身分からないことだらけだと痛感しました。藤原先生の「事前準備を行い、場数を踏むことで効果的な話し方のスキルを磨きましょう」が一番印象に残っています。そのために、知識を深めようと思いました。
・子供の交通安全や自転車の安全利用という興味のあるテーマだったため。

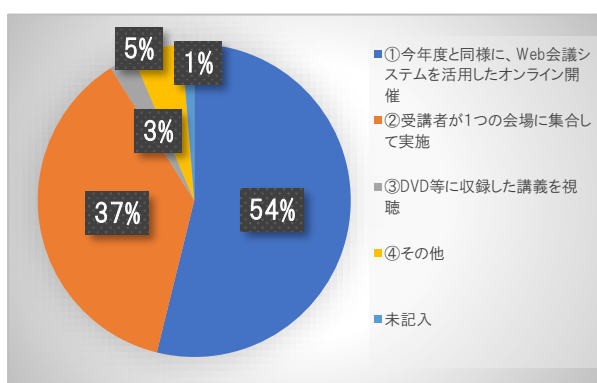
9. 本講座の開催方法：オンラインでの開催はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	65	83%
不適当	11	14%
未記入	2	3%
合計	78	100%



10. 本講座の実施方法:どのような実施方法が効果的だと思いますか。

	人数	割合
①今年度と同様に、Web 会議システムを活用したオンライン開催	42	54%
②受講者が1つの会場に集合して実施	29	37%
③DVD 等に収録した講義を視聴	2	3%
④その他	4	5%
未記入	1	1%
合計	78	100%



<①を選んだ理由を教えてください>

・参加しやすい。
・見やすかったことが一番です。発言者、資料など、広い会場では見えなかったと思います。また、グループがあった為、他地域の方と話せたのはとても良かったです。
・来年のコロナ状況は不明ですが、人が集まる東京に行き、様々な所からの参加者により、会議室での講座を受ける為に密になるのは避けた方がいいかと思います。
・全国の受講者が一つの会場に集会するのは大変だと思いますので、今回と同様に開催した方が良くと思います。
・コロナ禍のため、全国から受講者が集まることは望ましくない。講義を聞くだけでなく、話し合いもあった方が良く思った。
・開催地へ行く時間等が短縮されるためです。
・Web 会議だと会場が遠くても自宅 or 職場で受けられるので受講しやすい。コロナが落ち着けば、会場に集合して実施するのも参加してみたかったです。(参加者同士の交流ができるから)
・グループ討議についても、オンラインで問題はなかったため。
・広い地域の方と交通安全について考える事できる。オンラインの良さが分かった。

・移動時間を減らすことで、1日にできることが増える。
・子供が3人います。子供のために、この仕事を選んだのに、子供に我慢させたくないため。
・移動する手間や宿泊費用が抑えられる。また、グループワークのとき、使っている教材などを見せてもらえる。ただ、機材の調子が悪かったりすると、知識がないので対処が難しい。また、グループ討議は直接会って話をする方が話しやすいと思う。
・コロナ禍における会議としては、Web会議が適当といえる。参加型の講座の方がより良い構成だと思う。「効果的な話し方」の講義は参加が良かった。
・初めてのオンライン講習で心配していたが、順調に講義が進み特に問題等なかった。
・家庭があるので遠方に出向く講座は難しいのでZoomがありがたい。
・コロナ禍で講習会のような多勢が集まる場所へ行きづらいのと、安全教室があつて、移動時間が確保できなくてもオンラインなら受講可能なので。
・コロナウイルス感染症の影響が続いている現状を考慮し、Web会議システムを使うことが望ましい。また、運営の対応・案内等も分かりやすく、大きなトラブルも見受けられなかったため、オンライン開催を続けても問題ないと思われる。
・本来ならば、一つの会場に集合して実施するのが望ましいと思いますが、コロナ禍であるため、相手の顔も見れてLIVEという点がオンラインが良いと思いました。
・一つの会場に集まる講座よりも自分としては、移動もなく皆様のお顔を近く感じながら受けられる講座で良いのではないのでしょうか。
・コロナ禍であるため、交通機関を使わず移動せず室内で行えるからです。
・個人的なことではあるが、対面が非常に苦手なため、この方式が良いと感じた。
・会場までの移動がなく、時間を有効的に使うことができるため。
・Webシステムを利用したことにより、手元にあった教材などを紹介してもらえた。大型のものなどもってこれないと思うので。移動時の身体的負担が減るため、日程も確保しやすい。
・遠方のためオンラインの方が参加しやすい。また、Web会議形式の方が、他の参加者の方と交流したり講師とリアルタイムでやり取りできたりするため、有意義だと思う。
・忙しい中で時間を作るので移動が少なくありがたいです。
・Web会議だとマイクの不具合などが生じる場合もあるが、それを踏まえても合理的で、コロナ禍でも参加しやすいと思う。
・コロナ禍ですので、今年度と同様にオンラインでの開催がよいと思います。
・この時期に行うのであれば、コロナやインフルエンザ等の感染を防ぐためにWebが良い。

・移動時間がかからない。コロナ禍になってから数年経っているため、環境はほとんど整っていると思う。
・オンライン開催は遠方からでも受講しやすい。
・開催地への移動が大変である事と、コロナ禍である事から Web 会議の方が良いと思いました。
・日本全国、各地域の意見を参考にできるという事。
・交通費や移動時間がかからない事が良いと思います。
・場所を問わない為、職場や在宅テレワークなど様々な形態で実施でき、参加者の負担が少ないため。ただし、通信環境によっては、スムーズに講座を受けられなかったり、進行できない可能性があるため、配慮が必要である。
・無理なく参加することができた。
・会場に行く手間がなくて良い。
・コロナの影響もあり、オンラインでの開催は良かった。
・まだコロナの感染状況が収まらないので、オンライン開催は安心して参加出来るので良いのと、ただ講義を受けるだけでなく、意見交換や問題を行うなど参加できるのが効果的だと感じました。
・移動時間がなく、身体的に負担が少なくて良いと思います。

<②を選んだ理由を教えてください>

・グループ討議は顔を合わせて一つの場所でやらないと意見交換が全体のキャッチボールにならず司会者の負担が大きい。その場で司会・書記を決めたり、進行に不慣れがあるので各班にナビゲーターがいると良い。
・発表者の中には、電波や接続状況が悪い方、操作方法が分からない方等スムーズにいかない部分があることや、直接のグループワークの方がより多くの意見交換ができるのではないかと感じた為です。
・効果的という対面でグループ討議をした方がリモートよりたくさんの意見交換ができると思った。
・討議の場面で、会場にて実施の方が話しやすいのかなと思いました。
・オンラインに不慣れなため、初め音声の調節に手間取った。先生方からの質問なども、オンライン故にスムーズにやりとりできない所が複数あったように思う。また、グループ討議においても直接会って話した方がもっと活発に意見交換できたと思う。(オンラインだと、どうしても相手(複数なので余計に)のタイミングを計りにくく話しづらかった)
・グループワークについては対面でホワイトボードを使うやり方の方がコミュニケーションがとれるように感じました。また、参加者との名刺交換なども行いたかったです。

<p>・全国からの参加なので交流の場として会場に集合しての実施ができるの良いと思いますが、この状況下ですので、オンラインで充分と思います。</p>
<p>・グループ討議は対面式で実施した方が良いなど改めて思った。Web でも良いが、やはり距離を感じる。</p>
<p>・移動がなく参加者の負担がなく大変良いが、実際に参加者と会えないことが寂しい。雑談などできない。</p>
<p>・グループワーク等がうまく進んでいかない。コミュニケーションをうまく円滑に進められない。(対面と比べて)</p>
<p>・オンラインでの講義はとても聞きやすく分かりやすかったが、グループ討議は直接会って色々お話をしたかったです。</p>
<p>・講義はオンラインでも良いが、ディスカッションはやりにくかったしもっと詳しく聞きたくても聞けなかった。</p>
<p>・スケジュールがタイトで、他の参加者との交流が全くできなかった。会場であれば、休憩時間などに情報交換ができたと思う。グループ討議も、もっと活発な意見交換ができたと思う。同じ悩みや苦勞を共有することで、活動へのモチベーションアップにも繋がるのでは。</p>
<p>・オンラインでも良かったが、グループワークなどできないこともあり、実際に顔をあわせて話した方が意見も言いやすいし、有意義な講義になったかと思います。</p>
<p>・グループワークであったり、グループ講義の時など、直接対面しないとできない活動があったり、ネットワークが不安定だと参加が難しい面もあるため。</p>
<p>・オンライン不慣れで、途中でつながらなくなったら...とドキドキしていました。</p>
<p>・会場の空気感も味わいたかった。</p>
<p>・グループ討議の際一人ずつしか話すことができなくて、対面式だったらもっとコミュニケーションがとれて、より濃い討議ができたと思う。</p>
<p>・パソコンの操作が不慣れである。</p>
<p>・グループ討議については、やはり、対面で行った方が効果的だと思う。</p>
<p>・講座に関してはオンラインでも良いと思いますが、グループ討議に関しては、面と向かって皆さんとお話したいと強く思いました。</p>
<p>・現在の社会情勢や移動時間を考えるとオンライン形式が好ましいが、安全教育のデモンストレーションや受講者同士の討議を考えると、集合形式の方が効果的だと思う。</p>
<p>・在住地域関係なく参加しやすいから。</p>
<p>・顔と顔を合わせることで、言葉だけでなく表現や表情が伝わりやすい。</p>
<p>・どうしてもオンラインであれば、システム操作の不安等があり、発言にも気を遣い、思うようなことが言えない。</p>

・コロナ禍で難しいですが、やっぱり対面の方が良いと思います。
・今はコロナ禍なので仕方ないですが、理想は対面でお互いの顔が見えた方が良いと思います。
・質疑応答がやりやすい。音声聞きにくい。
・グループワークなどがあつたので、一つの会場に集まる方が良いと思います。
・グループディスカッション等は、雑談等のお互いを知るきっかけがあつた方が、話がはずむと感じたため。

<③を選んだ理由を教えてください>

・コロナで1つの会場に集まるのは難しいですし、オンライン開催だと機材を借りたりしなくては行けなくて大変だったからです。
・オンライン開催は移動等なく平易に行えるが、拘束時間が長く集中力が続かない。講義については、各々DVD 視聴で問題ないと感じる。(希望者のみ)

<「その他」と回答した理由>

・オンライン・対面式、一長一短があると感じる。一つの会場に集合する場合、日数・費用等問題が生じる。グループワークは、対面式の方がお互いのコミュニケーションがとれる。
・講座内容をDVD化して全員に配布。講座の資料はあくまで参考で、講師の話の中に大切な内容があるので。
・講演についてはオンラインでも良かったが、グループ討議についてはオンラインだと意見が出しにくいと感じた。Zoomの機能も充実していて、講演や資料閲覧も問題なかった。他市さんの事例等をもっと知りたかった。グループ討議の時間が短いと感じた。
・グループ別に会場を変え、討議は対面、講義はWebで受講はどうかなと思います。対面の方が話が広がり、反応も分かりやすいように感じたので。(リモートで同室で2人以上受講した場合、音声でミュートにしているため、同室の人が話している間は発言しにくい。場所の都合で一人一部屋は取りにくい)

11. 本講座の運営の中で、今後、改善してほしいところ、また改善策があればご記入ください。

・グループ討議用紙や、本紙など提出が必要なものについては、エクセルやワード等の「書式」をメールで送付していただきたいと思います。
・音声人が人によって聞こえにくく、時々雑音が入る。
・時間通りに講座が進んでいて良かったです。

<p>・講座の資料はもう少し余裕を持って届けて下さるとありがたかったです。先生によっては、資料のプリントが2枚割付だと小さくなって見づらいことがあった。</p>
<p>・先に先生方の話を聞き、他県の方とグループ討議すると、勉強会の理解が深まり、より良い意見が出るのでは？と考えました。</p>
<p>・最高でした。本部の方の配慮が素晴らしくて、時間を無駄にすることなく学びました。</p>
<p>・大変、勉強になりました。皆様に感謝します。1～2回、ネットワークに支障が起きましたが、参加させていただきありがとうございました。</p>
<p>・時々、音量が小さくパソコンに耳を近づける必要があったので、最初にボリューム確認(講師毎)してほしい。</p>
<p>・グループ討議準備の時に、司会者等を決める時には、事務局の人に入っただき、進行をお願いしたいです。(なかなか口火を切る方がいらっしゃらないので)また、同じグループ内でも実際に教室では指導している方と行政の担当者の方では、討議したい内容が異なってくるので討論の議題を決めるのが難しいと思いました。</p>
<p>・グループ討議の時間が短く感じた。司会・発表者は運営側で予め決めていただいてもいいと思った。事前準備もその方ができる。議論もスムーズにスタートできるのでは...と感じた。</p>
<p>・グループディスカッションの中で、事務局の人が一人入ってもらえると、トラブルにも素早く対応できるのではないかと感じました。また、進行の中で、方向性が定まっていない時も、アドバイスいただくと、時間内にいい意見が引き出されて、まとめられるのではないかと感じました。</p>
<p>・スムーズだったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・大変お世話になりました。</p>
<p>・発表者や司会者がなかなか決まらなかったところ、素早く本部の方がフォローに入っただけなのが良かった。改善してほしいところは特にありません。</p>
<p>・講義の中に選択できるもの(高齢者、児童など)があってもいいなと思いました。</p>
<p>・グループ討議の役割を決めるのが、初参加の方だけだと難しかった。途中で事務局の方がきてくださったので少し進んだので、できれば初めから事務局の方もいると良いかと思いました。</p>
<p>・スケジュールがタイトで、グループ討議の発表後の質疑応答がなかったのが残念。休憩時間に雑談できるようなシステムがあっても良いと思う。</p>
<p>・講義①の資料、文字が小さく見づかった。A4に1頁ずつの資料にしてほしかった。進行の際に、資料の確認と準備のアナウンスがほしかった。資料見つけにくく慌てました。</p>
<p>・時間配分なども完璧で、とても良かったです。</p>

・今年の状態がいいと思います。
・2時間の講習は長く感じます。1時間～1時間半にしてほしい。
・Zoom 使用マニュアルですが、パソコンでの操作方法と iPad での操作方法と違う様で、iPad 用の操作についても記載していただければ、より良かったと思います。（機械に疎い私の個人的な意見で申し訳ありません。）
・立哨活動している方、異動があり上手く引継ぎができていない自治体の方、経験の浅い方など様々な方々が参加していて、それぞれ試行錯誤しながら取り組んでおられた。それらの現場に即したより具体的な内容があると良いと思いました。
・討議のみ参加、講義のみ受講など選べると良い。（スケジュール上もありがたい）
・Web 会議の時はマスク無しでお願い。
・発表者が午後 7 時までには内容をまとめ報告する場合、時間的な余裕がないと感じました。
・社会情勢を考慮しつつ、集合形式の実施も検討していただきたい。
・今回、他ではどのような交通教室を行っているのか知りたかったという事もありましたので、事例発表がなくなってしまったのは、とても残念でした。発表者が欠席の場合は、代理を立てることはできないものでしょうか。
・グループ討議のため、ブレイクアウトルームに案内されたが、そこから事務局より案内や開始の指示、または合図がなかったため、いわゆる「お見合い」状態が続いてしまったので改善してほしい。
・できればオンラインではなく、一つの会場に集合して実施してほしい。
・グループ分けで、交通安全指導している方のレベルが違い、グループ討議で言える事がなかったので、教室をやっている側なのか、旗振りさんなのか、分ける必要があると感じました。
・講師の方が皆さん解りやすく説明してくれたので現状で良いと思います。
・事務局の方で、事前に司会者・発表者・テーマを決めていただきたい。
・池田先生のお話(最後の挨拶)が切れてしまったのが残念でした。

12. 講師への質問等がありましたら、ご記入ください。（複数記入可）

※ 受講者からの質問に対して、講師の先生にそれぞれご回答いただいております。

①藤原徳子先生へ（講座名：交通安全指導における効果的な話し方）

《質問・回答》

【質問】

昔から発音が悪いと言われますが、直す方法ってあるのでしょうか。

【回答】

発音については、一朝一夕には身につかないものです。したがって、日々「アクセント」や「イントネーション」、そして「清音・濁音・半濁音」を意識しながら、練習していただければと思います。

【質問】

交通安全教室での話し方、とても参考になりました。視点法など、どこを見て話すのが良いかと思っていましたので小刻みで今後は見ていきたいと思ひます。道路上での啓発(登下校時)での注意の仕方など良い話し方があれば教えていただきたいと思ひます。(一瞬で注意しないといけないため)

【回答】

状況次第で、注意の仕方は異なると思ひます。指摘事項がある場合、まず相手の心を開く(指導者の言葉に耳を傾ける)ための「挨拶言葉」を徹底することから始めると良いでしょう。「おはようございます」、「朝から元気がいいね」、「挨拶がきちんとできて偉いね」、「行ってらっしゃい」、「お帰りなさい」、「今日も一日、よく頑張ったね」など、一瞬でかける言葉は様々あると思ひます。優しい言葉がけの後、「事実(具体的な行動)」を言ってから、「改善行動」を伝え、「気をつけようね」と語りかけては如何でしょうか？登下校中は、おっしゃる通り、一瞬の出来事ですから、微笑みを忘れず、優しい口調で話しかけていただければと思ひます。

【質問】

私は人前に出ると緊張して声が震えてしまいます。あがり症をなおす方法がありましたら教えてください。

【回答】

講習会でも申し上げましたが、事前準備と場数を踏むことが、「あがり症」を克服する早道です。そして、登壇前にゆっくりと深呼吸をしましょう。また、「普段、身近にいる人に話している」という感覚が大切だと思ひます。「上手に話そう」と思わず、交通安全指導者としての使命を果たすためにも、講義内容をしっかりと準備しましょう。受講者の反応を気にしすぎると益々緊張してしまいますので、準備した講義内容を伝えることに徹すると良いでしょう。

《感想》

・先生の話し方、講話の進め方等、本当に参考になりました。

・指導員1年目ということもあり、講話の組み立て方について悩む事もあったのですが、思考整理術を参考にし、講話の組み立てをしてみようと思ひました。

・子供に対して、言葉を言い換えるのではなく、彼らが使っている言葉を使うことや、スピーチの具体的な進め方のポイントなど、とても参考になるお話でした。

<p>・知識・経験・技能が自信につながり、人も意欲になる。(記憶に残る指導につながる)聞こうとする、再確認ができました。さらに向上に努めていきます。ありがとうございました。</p>
<p>・すぐ聞きやすく好感がもて、始まってすぐから、ずっと私の頭の中に入ってきました。ありがとうございました。</p>
<p>・言葉の大切さを考えさせられました。今後、活かしていきたいと思います。</p>
<p>・ありがとうございました。今までの交通教室等で話した言葉を思い浮かべてハッ！とする事がいくつもありました。講話時の視線に困っていたので、Z視点法はぜひ活用したいと思います。ロジックツリーを用いたスピーチトレーニングも参考になりました。実践しようと思います。</p>
<p>・実践的な内容ですぐに活用したい内容ばかりだった。交通安全教室だけでなく、私生活も振り返り見直したい。事実の基盤で話しをしたり、「ああ」「ええ」「〇〇し～、」など使わないようにしたい。</p>
<p>・特に質問はありませんが、自分にとって非常に難しかった内容でした。</p>
<p>・全てが参考になりました。実際に活用できるのは、少しずつかと思いますが、普段の生活を含め活用させていただきたい事項ばかりでした。</p>

②中土美砂先生へ（講座名：交通事故被害者支援について）

≪質問・回答≫

<p>【質問】 交通事故の悲惨さを知ってもらい、自分事にしてもらうために交通教室内で今回いただいた遺族の手記を使用(読みあげる等)させていただくことは可能でしょうか？可能であれば、使用するにあたっての注意点、費用が発生するのか等も教えて下さい。</p>
<p>【回答】 手記の使用については、改めて都民センター(03-5287-3337)にお電話をいただければと思います。読み上げる手記の著者をご指定していただき、その方の了解を得てからになりますので、お手数ですが、使用目的と著者名を都民センターにご連絡ください。注意点としましては、前述した事前の確認が必須であること、コピーでの配布は基本的にはしていないので、ご希望があればそれも可否をご確認ください。費用はかかりません。</p>
<p>【質問】 学校での出前講座は全国でも行っていますか？また行っている場合は、依頼方法を教えてください。</p>
<p>【回答】</p>

警察で「命の大切さを学ぶ教室」という事業を主に中学生、高校生を対象に行っています。管轄の警察署の「被害者支援推進員」が窓口ですが、少年係とか学校とつながりがある警察官がいると思いますのでその方にお問い合わせください。この事業は警察で予算をくんでいるので、警察がやると言えば費用はかからないと思います。その他、謝金はかかるとは思います。地元の被害者支援センターに依頼するとか、自治体の被害者支援担当が独自で講演会をしているところもあるかもしれません。市役所区役所などには「総合対応窓口」という被害者支援を担当している部署がありますので、そこにも情報があるかもしれません。(警察庁 被害者支援、のキーワードで検索すると全国の「総合対応窓口」が出てきますのでご確認ください。)
「生命のメッセージ展」開催については、費用は発生しますが、事務局(042-594-9810<金・土・日の10:00-17:00>)までお問い合わせください。

【質問】

被害者支援センターとは、都内のみにあるのですか？それとも、全国に支部がいくつかあるのですか？

【回答】

被害者支援センターは全国各都道府県にあります。北海道には2か所あります。各センターで成り立ちが異なるので(警察や弁護士主導、女性支援、精神科医やカウンセリングルームなど)、対象事案や支援内容については大きくは変わらないと思いますが、特色は異なると思います。詳細は「公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク」のホームページをご確認ください。

【質問】

どこか他人事になってしまいがちです。引き付ける工夫(周りの方々を)、例を教えてください。

【回答】

体験を含め被害者遺族の講演の「生の声」は聴いてくださる方は真剣に聴いてくださいます。また、「生命のメッセージ展」で被害者自身と対峙する経験は老若男女問わず、反響が大きいです。ただ謝金や開催費用等もかかりますので、ご自身で工夫されれば、今回お配りしている手記の朗読であるとか、ほかにも被害者遺族は手記を出版していますので、そこから「生の声」を伝えていくのも一つの方法かもしれません。当センターの手記を活用される場合は費用はかかりませんが、あらかじめ著者に許可を得ていますので、事前に都民センター(03-5287-3337)までご連絡ください。当センターでは、ご遺族の方のご協力を得て、亡くなられた方の写真入りパネルを作成しています。主に警察や区役所など行政機関に貸出して多くの方に見ていただいています。ほかの支援センターでもそういう広報グッズをもっているところもあるかもしれません。パネルなど、視覚的に「見せる」ものでひきつけていく、ということも有効かと思います。

【質問】

辛い胸中の中、このような言葉に救いを得られたというのがありましたら教えてください。また、被害者支援都民センターは、都民以外の人でも利用可能なのか、他の都道府県にもこのように活動されているセンターはあるのかを教えてくださいと嬉しいです。

【回答】

救いを得られた言葉、というのは難しいかもしれません。なぜなら言葉の持つ力はそれまでの関係性がかなり作用するからです。一般的にはすでに頑張っている被害者にはかけてはいけないとされる「頑張って」という言葉も人によっては仲の良い人からの言葉であれば嬉しいと言う人もいます。私自身は、その頃仲良くしていたママ友には愛想笑いをしている私に「笑ってていいよ、無理しているのはわかっているから」と言われて少し楽になった、というのがありますが、違う関係性の人に「わかっているから」と言われたら「わかるわけない」と反発していたかもしれません。言葉よりも、まずそばにいること。寄り添うことが大切かと思います。事件直後本当に有難かったのは、友人知人がおにぎりや煮物を差し入れしてくれたことです。あとは引きこもっていた私たち家族を気遣い、子供たちをお芝居などに連れ出してくれた近所の方にも感謝しています。また、PTA 保険や共済、被害者団体や被害者支援の情報など、情報提供してくださるのも心強かったです。近い存在であれば言葉よりも家事を手伝う、買い物に代わりに行く、子供と遊ぶなど具体的なお手伝いは助かります。親しくなければ同情で近づくより遠くから見守るのがいいのかもしれませんが。私は事件から 10 年くらい経った時に同じマンションの人から「お子さんも大きくなりましたね。やっと声をかけることができた。なかなか声をかけ辛かった」とエレベーターで乗り合わせた時に告白されたことがあり、その方は長い時間、見守ってくださっていたんだな、と思うことができました。それにはこの「10 年」という年月が必要だったなと思います。

都民センターの利用については、都民でない場合は事件地が東京であれば、殺人や交通死亡事件やひき逃げ重傷事件などは刑事手続きへのサポートなどはできるかと思います。精神的ケアは東京都からの予算で行っている所以对象外になります。被害者支援センターは全国各都道府県にあります。北海道には 2 か所あります。各センターで成り立ちが異なるので(警察や弁護士主導、女性支援、精神科医やカウンセリングルームなど)、対象事案や支援内容については大きくは変わらないと思いますが、特色は異なると思います。詳細は「公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク」のホームページをご確認ください。

《感想》

<p>・中土先生の子供さんが交通事故で亡くなられたことを聞いて、涙が出ました。実は私も3年前に義母を交通事故で亡くした交通事故被害者です。これからも交通事故被害者支援に頑張ってください。</p>
<p>・支援(団体)について、勉強不足だったと思いました。息子さんを亡くされた、ご自身のお話を聞き、胸が締め付けられる思いでした。大切な命が守られるよう指導していきたいと思いました。</p>
<p>・子供を持つ親として、他人事ではないお話だった。「加害者に凶器をもって殺された」と思っておられるとの言葉が心に残っています。</p>
<p>・当事者からしたら、残された家族・人がいる以上、たくさん苦しみ悲しみがあっても、生きていかなければならない時、このような支援センターがあつて、心の支えあり、生きる力になる場として心強いです。</p>
<p>・本当にありがとうございました。もっと強く大人への交通安全を伝えて、子供達、その子供達を守っていきたいです。みんなで力を合わせて、大切な子供達を守っていきましょう。</p>
<p>・とても身に詰まされました。事故無しを目指して、努力してまいります。</p>
<p>・ありがとうございました。運転する身として改めて高い意識を持って運転をしなければと強く思いました。また、交通指導員として一人でも多くの方に、交通安全に対する意識・関心が根付くよう日々の活動に取り組もうと思いました。</p>
<p>・貴重なお話をありがとうございました。交通安全の大切さ、原点に戻ることができました。</p>
<p>・辛い体験をお話いただき心に響くものがありました。ありがとうございました。</p>
<p>・わかりやすく説明をしていただきありがとうございます。</p>
<p>・聴講しているこちらが辛い気持ちになるほどのお話でした。ご自身の身を切るように日々活動してこられたのだらうと想像します。ありがとうございます。子供を守りたい気持ちと、保護者に寄り添いたい気持ちが一層強くなりました。</p>
<p>・身に詰まる思いで聞かせていただきました。少しでも、交通事故が減れば良いと思いますし、微力ながら努力したいと思います。</p>
<p>・交通事故の被害者支援センターがある事を初めて知りました。愛知県にもあるか調べてみたところありました。被害者の皆様は心身共にとても苦しく辛い状況にあると思います。交通指導員として少しでも事故を防ぎたい。そのためにたくさんの支援センターの方々の活動を広め、理解していただきたいと思います。愛知県は事故がとても多いです。小学校など、たくさんの講義の場を設けてほしいと思います。</p>
<p>・お辛い話をしてくださり、本当にすみませんでした。質問はありませんが、悲しい思いをする人がいなくなるよう交通指導に力を入れます。</p>

③警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係へ
(講座名:交通安全教育デモンストレーション)

《質問・回答》

【質問】

「チャイルドビジョン」とても有効的と感じますが、複製して使用することは可か不可か。

【回答】

東京都や警視庁のホームページから東京都版チャイルドビジョンの PDF データをダウンロードできますので、ぜひ印刷して活用いただけたらと思います。

【質問】

パワーポイントを使用せずに簡単にできるもの(※1)、次の話へのつなぎ方(※2)、幼児・高齢者以外の講習で使えるような同じようなゲーム等(※3)あれば、教えていただきたい。

【回答】

※1 今回お伝えした、パワーポイントのイラストを見て鳴き声と動作をするゲームは、印刷したイラストをスケッチブックなどに張り付けテンポよくめくっていくと、パワーポイント同様に楽しく実施することができます。ネコと言ったらニャー、ブタ言ったらブーなど、連想ゲームのように言葉のやり取りを色々なテンポで行うと楽しく実施できます。

※1・3

めくりタイプのゲームで、赤・青・黄・緑などの漢字の示す色と異なる色で印刷した紙を貼り付け、テンポよくめくり、色に惑わされないように漢字を答えてもらう。上手に出来たら、今度は赤のときは青・青のときは赤・黄のときは緑・緑のときは黄色のように、漢字に惑わされずに色を答えてもらうと、難しく感じるかもしれません。あか・あお・きいろ・みどりなど平仮名にしてみるのもよいです。色ゲームは子どもから大人まで楽しめますので、お互いのコミュニケーションをとるには最適です。

※2

こちらの動きをよく見て同じ様に動く・反応することを求めるゲームや体操のあとは、対象者に対し、様々な交通状況の中で意識して見る(安全確認)・観る(危険予測)・聞く(状況判断)ことの大切さを伝え、交差点や横断歩道を渡る時の安全確認の方法や具体的な交通ルールのお話につなげていくとよいと思います。手遊びのような手指を動かす運動を含む導入は、高齢者の機能低下の話・機能低下を理解した上での慎重な交通行動の話などに繋がります。色を使ったゲームは、信号を連想させ、その後の信号の見方や信号機のある交差点での事故防止の話等に繋がると話易くなります。繋がたい講話内容によって導入を選択することをお勧めします。

【質問】

資料があるととっても良かった。

【回答】

今後は、パワーポイントのノートなど資料をお渡しするよう検討します。

《感想》

・警視庁による自転車の交通違反の取締が強化されていますが、自転車のマナーアップ、法令順守が進むよう、これからも頑張ってください。

・幼児の事故防止・歩行編・自転車編、ポイントになる部分の導入の仕方、とても参考になりました。保護者に対する安全教室について、大人が子供のお手本になれるよう、保護者の方に伝える必要も大切だと思いました。

・子供への自転車ルールを、三輪車やストライダーの頃から教えていくことが大事というのはとても参考になりました。ブーニャーゲームや可愛いうつきーくんのようなキャラクターも導入できたらなと思います。

・子供の身になって、高齢者の身になって感じてみる大切さを知り、補助・助力できることが分かってきました。少しでも、分からないを分かったという達成に変えられるよう努めたいと思います。

・大変楽しいDVDを見せていただきました。啓蒙活動を今後ともよろしく願います。

・ありがとうございました。うつきーくんがとてもかわいかったです。子供の特性については、保護者向け教室や見守り隊の方々への教室でも今まで通りしっかりお伝えしていく必要があると思いました。様々な「導入」の方法も参考になりました。

・日頃、幼児を対象に教室を行っている立場から、とてもよくできた内容であると感じた。今後の教室にも役立てていきたい。

・導入のゲーム等や教室のデモンストレーションが見れて良かったです。チャイルドビジョンは活用していきたいです。

・今後の参考にさせていただきます。とても楽しく拝見させていただきました。

・交通教室で実際どのように指導しているのか、を見せていただくことでよくわかりました。門を出たら、危ない事が色々あるね、などの画像は真似をして取り入れたいなと思います。

・中々交通安全教育の仕方を見ることがないので、デモンストレーションはとても参考になりました。

④山口直範先生へ（講座名：子供の交通安全教育について）

≪質問・回答≫

【質問】

北欧では自転車の利用が多いと見聞きしますが、自転車の教育とかはどのようにしているのでしょうか。（ヘルメットの着用率も高いそうですが）

【回答】

学校教育の中で自転車の安全運転教育を実践しています。日本のように体育館やグラウンドで乗るのではなく、実際に道路に出て走行して学んでいます（自転車の先導車両には指導者）。また、交通安全の啓発活動に子どもたちが参加しています。STOP 看板出すのを手伝ったり（子どもでもできるように改良）、ドライバーに声をかけたりです。

【質問】

子供の交通死亡事故ゼロの国に興味を持ちました。ノルウェーやフィンランド以外にもあるのか、また、死亡事故をゼロにするにあたって他にもどのような取り組みを行ったのか教えていただきたいです。日本が死亡事故ゼロになるには、どうすれば良いか、現状できない理由は何か教えていただきたいです。

【回答】

他の国はわかりませんが、死亡事故ゼロの取り組みとしては日本でいうゾーン 30 を市街地・住宅街など幹線道路以外は徹底して速度規制をしています。また、子どもの通学時間帯になるとポラードという頑丈な金属製の支柱を道路中央に配置して車の侵入を防いでいます。

【質問】

横断歩道を横断させる際、手を上げている状態で横断させた方が良いのか、手をあげずに横断させたほうが良いのかお尋ねしたい。（横断する際、手をあげることにより意思表示させたほうが良いという考えもあるため）横断する時、確認する方向の道路側の手を上げるという話があったが、どちらのほうが安全に横断できるのかご教授願います。

【回答】

おっしゃる通り手を上げないで横断する方法を推奨しているところもあります。私は個人的には横断前は手をあげて合図し、横断中は手をあげてもあげなくてもいいと考えています。大切なのは横断中も注意して車が来ていないか見続けることです。

【質問】

国別状態別交通事故死者数の状況で、アジア圏のデータが入っていないのは、日本よりも%が高いからなのでしょう。アジア圏のデータも教えていただけると嬉しいです。

【回答】

私は ASEAN 地域の交通対策に取り組んでいますが、状態別死者では 8 割前後が自動二輪車です。また、歩行者事故については、国際統計として先進国と比較できるデータがない(信頼性と妥当性)ことも影響しています。

【質問】

鈴鹿市立愛宕小学校で行われた自転車教育の実践は、何年生の子に、どのような内容で開催したのか、もう少しお聞きしたかったです。

【回答】

対象は 5 年生と 6 年生でした。PTA にご理解いただき、土曜日に自分の自転車で学校に来てもらいました。コース設定は直列スラローム、オフセットスラローム、U ターン、狭路の組み合わせで走行ラインを規制するのではなく自由度を与え、どこを走ればいいのかも自分で考えさせるようにしました。

【質問】

外が雨だった時の交通安全教育は、何か良い案はありますか？

【回答】

雨天は困りますよね。私は順延にしていました。参考までに自転車ではなく、自動二輪車の指導をする際は雨天でもレインウェア着用で通常通り実施しています。雨は雨なりの注意点や走り方がありますから。例えば雨の日の走行は目線が下に向きがちなので、意識して前方へと目線を移すなどです。

【質問】

子供の海外での教え方など、他の国ではとても力を入れて指導していることが分かりました。小学校や保育園では、むしろ交通教室が縮小されている所が数多くあります。たくさんの小学校や保育園で、交通教室の必要性をもっともっと広めていただきたいと思います。指導員が訴えても限界があります。どうすればもっとたくさんの講義時間をいただけるのでしょうか。

【回答】

データをもとにお話してみてもいいでしょうか。例えば人口動態調査によると 1 歳以上の不慮による死亡事故で最も多いのは交通事故です(0 歳は誤えんなどの窒息)。つまり、大切な子どもがある日、突然事故死してしまう可能性が高いのが交通事故だということです。また、幼稚園や小学校で交通安全教育を実施することは法に定められていることを周知してみてもいいでしょうか。学校保健安全法、学習指導要領、幼稚園教育要領などに記載されています。

【質問】

心理学からの子供の考えが知ることができました。ありがとうございます。交通安全教室に行き、実際歩行訓練に出ると、本当に子供達は下ばかり見ているんです。子供たちは確認していたんですね。自転車の難しいコースは、HP に載っていますか？何年生からできるものなのでしょうか？

【回答】

自転車のコース例などは掲載されていませんが、自動二輪車のライディングスクール(運転免許教習ではありません)のコースレイアウトは参考になると思います。また、子どもたちの目線を意図的あげたり、左右を見たりと広範囲を見るように習慣づけるといいでしょう。

《感想》

・子供達に横断歩道を渡る時は、左右の安全確認後、右手をあげて渡りなさい。と、指導していますが、先生から道路半分渡ったら、今度は左から車が来るので左手をあげて渡よう指導してくださいと言われたことが参考になりました。

・子供の発達段階における特性のお話は、とても勉強になりました。特性を理解し、指導の時に活かしていきたいです。チャイルドビジョンを体験してみようと思います。

・子供にただやることだけを教えるのではなく、何のためにその行動をするのか、また自分で危険を考えさせることの大切さなど印象に残りました。海外の事例も新鮮で面白かったです。

・家庭と学校(教室等)、イベントを通して正しい道標となるよう連携を図り、啓発に努めていきたいと思います。

・すごくすごく面白かったし、聞いていて心地よかったです。すごくファンになりました。先生の YouTube を見て、私も子供の興味関心を引ける話し方を勉強していきます。

・何気なく見逃し過ぎてきたことに気付かされました。今後の街頭活動を含めて、日常の中で、活用して参りたいと思います。

・一昨年は本市(生駒市)の YouTube への監修・講演をしていただきありがとうございました。再び本講座で山口先生のお話を聞いて大変うれしかったです。自転車教室(本市では4年生)については、私たちも頭を悩ませております。講座を参考に、今後の教室の指導員・署員と再検討したいと思います。

・山口先生の講義を以前も受けたが、今回も大変面白く勉強になった。歩行者に関連する交通死亡事故を0にする目標をもった。

・とてもためになる講話でした。海外の事例や心理学を活用した教育技法など、幼児だけでなく保護者への教育活動の参考にさせていただきたいです。とても良かったです。

・とても楽しく聞かせていただきました。「国別状態別交通事故死者数の状況」の日本の状況は驚きました。自分自身、車の運転も気をつけたいと思いました。今後参考にさせていただきます。

⑤池田佳代先生へ（講座名：いきいき運転講座）

《質問・回答》

【質問】

ディスカッション形式での講義、大変すばらしいと思います。しかし、現実として、小学校や保育園からもらえる説明時間が20分とか、それぐらいで、後は実地訓練になるので、説明のみになってしまう事が多いです。考える時間が足りないのはどうすれば良いですか？

【回答】

研修でご紹介したケースの場合（信号機なし交差点での車の通過）、ビデオ教材を見せ、①何台の車が止まらなかったか ②なぜ車は停まらないのか ③どうすれば危ない目に合わなくてすむか、を2,3人の生徒さんに答えてもらい、足りない答えを先生が補うようにしてはいかがでしょうか。短時間ですみますし、問題に気付くきっかけになるかと思います。

保育園の場合は、保護者の方を対象にし、法規通りに走らない車の現状を知ってもらい、お子さんの手をしっかりとつないで保護する大切さを伝えていただくとよいかと思えます。

【質問】

ありがとうございました。いきいき運転講座を本市の各自治体等で開催できればと思います。また、この講座を子供向けにアレンジできればと思いました。

【回答】

小中学校で「いきいき運転講座」を実施しておられる地区の責任者の方にお話を伺ったことがあります。使われたのは、研修でご紹介したものと同じビデオ教材。ワークシートを使い、ディスカッションしながら答えを見つけていく、というやり方がスムーズにできたとのことでした。学校でアクティブラーニングが実施されていることから、自分の意見を書いたり、ディスカッションや発表をすることに生徒のみなさんは抵抗がないとっておられました。対象は4年生以上。ワークシートの難しい漢字にはルビをふったそうです。

《感想》

・一時停止のある交差点で15台中1台も一時停止していないことにびっくりしました。これから指導するうえで歩道から交差点に進入する際は、必ず手前で止まるように歩行者、自転車に指導していきたいと思えます。

・高齢ドライバーの事故増加の中で、話し合いを中心として講座を進めていく点、ドライバーだけではなく、免許のない方も参加する事で、沢山の意見につながると思いました。高齢者だけでなく、他の世代にも代用できるのではないかと思います。

<p>・脳トレやトレーニングの実践があつて面白かったです。自分でやってみる、自分で見て考える、それを発表するのは高齢者だけでなく全年齢に共通して意識を高めるのに役立つのではないかと思います。</p>
<p>・運転側、歩行者側、それぞれに危険は常につきものです。発言することで、予測をしたり事故につながらないよう、楽しく解決していける講座でした。是非チャレンジしてみたいと思います。</p>
<p>・私自身、年齢が高くなり、運転が若いころと異なっていると感じてました。交通網が整ってないので、車は手放せません。いきいきと今後も運転できるよう心がけていきたいです。</p>
<p>・グループ学習ができればなおよかったが、一人一人でも自分の運転を振り返るよい機会になったと思う。</p>
<p>・対象が高齢者ということであるが、私のような 50 代でも十分に活用できる内容のように思えた。今後、自分も高齢になるわけであるが、今回の研修を思い出して活用していきたい。</p>
<p>・脳トレ等、楽しく緊張しながら参加させていただきました。機会があれば、活用させていただきます。</p>
<p>・人は、体験することで記憶するのだというのが身に染みてわかりました。私はまだ高齢者の教室に行った事がないので、是非行って習得したことを実践したいです。</p>

⑥彦坂誠先生へ（講座名：自転車の安全利用のために）

≪質問・回答≫

【質問】

信号機のある丁字路、単路の自転車の通行方法の危険な例を教えてくださいました。その場に警察官が居合わせた場合、取締りの対象になるのか。また警察官ではない取締りの権限がない指導員はどう指導、対応すれば良いか。停止線や路側帯の有無、路側帯の切れ目等が関係して指導の仕方が変わるのか。分かる範囲で教えてくださいたいです。

【回答】

- ① 信号無視となりますので、取締りの対象となります。
- ② 交通指導員の方の場合は、取締りの権限がありませんので、「信号を守ってください」といった声掛けや、周囲の歩行者などの安全確保、注意喚起がよいと思います。
- ③ 赤信号は「停止線より前に進んではいけない」となります。これは自転車も同じで停止線手前、停止線がない場合は横断歩道手前で青信号を待つこととなります。また、路側帯内を通行している場合は路側帯を「歩道とみなす」ため、車両用信号にかかわらず通行することができます。道路幅員にもよりますが、小学校正門前の横断

歩道などでは特に安全確保が重要ですので、その場所にあわせた臨機応変さも求められると思います。道路状況により危険も異なってきますので、場合によっては地域の警察署でご確認いただくとよいと思います。

【質問】

最後の話で電動キックボードやモペット等、普通自転車に該当しないものがありました。そこをもう少し詳しく伺いたく、資料等あればいただきたかったです。(特徴、危険性・乗る時に気を付けるべき点、通行区分・右左折の仕方)

【回答】

地域によっても異なりますが、「フル電動自転車(ペダル付き電動自転車)」が多くなってきていると感じています。「電動自転車」などの言葉で検索すると、「電動アシスト自転車」とともに、「フル電動自転車」もヒットします。自転車という名前がついているため、一般的な自転車と誤解されて利用されていることが多いと思いますが、原付バイクと同じです。通信販売が気軽に利用される時代、知らずして規格外のものを購入してしまうこともあると思います。ニーズの多様化にあわせ、一般店頭販売されている自転車の中にも「普通自転車」の規格外のものがあります(本格的なマウンテンバイクなど)。今後、様々な小型モビリティが出回ってくる中で、まずは「普通自転車」という規格があることを知ってもらい、購入する際に注意してもらうことが大切だと思います。

【質問】

講義の時に使用されていたスライド(自転車の走行位置や安全利用五則、左右確認するときの車のドライバーの視線の範囲を示したもの)はとてもわかりやすかったので、もしご提供いただけたら、実際の教室で使用させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【回答】

使用したスライドは、自転車や自動車など個別に作ってもらったものを組み合わせて使用しています。イラストレーターとの著作権の関係もあり、スライドデータをそのままご提供することが叶いません。ご要望いただき大変光栄ではあるのですが、お許しただければと思います。

【質問】

大変分かりやすい説明に加えて、目で確かめることによって理解が深まりました。他の人にも是非お伝えしたいのですが、今回資料でいただいた2枚目の「ドライバーの視野」「自転車レーンの通行区分」「飲酒運転の事故データグラフ」「ライトは前方10mを照らす」画像等をもしご提供いただけるようでしたら、使わせていただきたいのですが可能でしょうか。

【回答】

使用したスライドは、自転車や自動車など個別に作ってもらったものを組み合わせて使用しています。イラストレーターとの著作権の関係もあり、スライドデータをそのままご提供することが叶いません。ご要望いただき大変光栄ではあるのですが、お許しいただければと思います。

【質問】

ネットで買ったおしゃれなヘルメットを着用してお店にも入ります。商品は簡易なものからしっかりしたもの、様々です。「安全規格」というものがありますでしょうか？それをクリアした商品でないと着用してはいけないなど規則がありますか？

【回答】

① どの製品でも同じように、安全認証マークがついている製品は様々な実証実験を経ていきますので、信頼性が高いです。すでに購入、使用されている方の中には安全認証マーク自体を知らず、マークなしの物を使用されている方もいると思います。単純に安全認証マークの有無だけで優劣はつけられないのではないかと思います。しかしながら、自転車用ヘルメットは命にかかわる装備ですので、初めて購入されるような方には、より信頼性の高いものをお勧めいただくと良いかと思います。ちなみに、交通法規では安全基準まで規定していないと思いますが、自治体等における購入補助では「安全認証マークのついたもの」とする要件があるようです。

② 自転車用ヘルメットの安全認証マークについては、SG マーク(一般財団法人製品安全協会)、JCF マーク(公益財団法人日本自転車競技連盟)、海外メーカーでは CE マーク(欧州連合の欧州委員会)、GS マーク(ドイツ製品安全法)、CPSC マーク(アメリカ合衆国消費者製品安全委員会)などがあります。

【質問】

自転車教室にて教えている立場となりますが、ルールについては独学だったので自転車通行部分(自転車レーンやナビライン)は不安で説明時間ももたないことから、あまり触れられずにいました。今回の動画についても、もし可能でしたら、教室で見せたりすることはできないでしょうか？(有料 or 不可ですか?)自作するとなるとかなり大変なところもあり、今のところ自作ですが、共有していただけないかと思います。

【回答】

使用したスライドは、自転車や自動車など個別に作ってもらったものを組み合わせて使用しています。イラストレーターとの著作権の関係もあり、スライドデータをそのままご提供することが叶いません。ご要望いただき大変光栄ではあるのですが、お許しいただければと思います。

≪感想≫

・新自転車安全利用五則の解説が分かりやすく、よくわかりました。

<p>・いただいた資料がとても見やすく分かりやすく、今後啓発チラシ等作成の際、参考にさせていただきたいなと思いました(色使いなど)。エアバックタイプのヘルメットは初めて見たので驚きました。</p>
<p>・小学校では、路側帯が自分達の地域にはない、又は気付いていない、ピンときていない子が多く認識が薄いので(歩道を走れるから)、正しく認識させ車の仲間を運転しているんだということを自覚させ、反復学習で理解を深めていけるよう努めたいと思いました。</p>
<p>・自転車の交通ルールは、以前に自動車学校で受講しました。でも、ルールも変わり、以前は見かけない自転車も増えてきました。今回の受講は大変勉強になりました。</p>
<p>・ありがとうございました。自転車利用五則の重要性を再確認しました。しかし、自転車利用者へその重要性を周知していくのは長い時間がかかると感じます。今後も、啓発活動等に力を入れたいと思います。</p>
<p>・資料のイラストも多く大変見やすかった。自転車安全五則を改めてしっかり覚えていきます。</p>
<p>・大変分かりやすい説明であった。実際に目で確かめることによって、より理解が深まった。</p>
<p>・とても分かりやすかったです。実際のドライブレコーダーでの事故映像が見れて良かったです。新しい利用五則について学べて大変参考になりました。</p>
<p>・私自身、正直自転車ルールについて曖昧な部分もあるので参考になりました。自転車ルール難しいです。</p>
<p>・定例会等が月1度あるのですが、隊長から「自転車安全利用五則」が11月から変わったという話は聞いていましたが、内容を知ることができて良かったです。</p>
<p>・11月から自転車の安全利用五則も変わり、ヘルメットの着用(努力義務)ではありますが、今までと同じように伝えていくことは大切だと思います。他の利用五則も再確認することもでき、より深い理解につながったと思います。</p>

13. 今後、講座で取り上げてほしいテーマ等がありましたら、ご自由にご記入ください。

<p>・「いざ交通事故加害者となってしまったら？」被害者側の面は多く知るが、加害者側になった場合を掘り下げていただきたいと思います。</p>
<p>・大人(高校生以上)への自転車ルール教育や指導。</p>
<p>・交通安全教室のアイデア、導入、講話などに取り入れられるもの。</p>
<p>・映像を取り入れた実際の交通事故発生状況、原因、対応策等。</p>
<p>・近年施行された、または施行される道路交通法について。</p>
<p>・サポカー機能について。</p>

・事故を扱う警察官の話等があれば、実際の事故現場の悲惨さを教えていただきたいかったです。
・啓発チラシやグッズなどを作成する上でのデザインやフォント、色使いなどの効果的な方法について学びたいです。(参考例などもあれば…)
・リモートで行う交通安全教室のやり方。
・外国人に対する交通安全教室での指導のやり方について知りたいです。
・今回、心理学の観点を取り入れた講座があり、とても勉強になりました。人はなぜ交通ルールを守らないかを掘り下げた講座があると面白いと思います。
・自転車での高額賠償の事故例について。特に児童(加害者)の事故例。
・小学校中学年における自転車教室事例。
・実技学習事例。
・各自治体で取り組んで成果上げている事例。
・警察の人から見た事故の傾向や私たちが伝えていくべきことを話し合いたいです。
・交通指導員の不足の声がありました。他府県でも状況や解決策などのテーマもあったらと思います。
・自転車の乗り方、マナー、事故防止についてお願いします。
・今回のように様々なテーマで行っていただけるとありがたいです。
・自転車実技を行うときのコース作りや技法について聞いてみたいです。
・交通安全運動でお啓発や取り組みについて。
・家庭での交通安全教育について。
・今回拝聴できなかったので、「交通安全教室事例発表」をお願いしたいです。
・認知症の方への交通安全教育はどのようにしたら良いか、専門家の方がいれば話を聞いてみたいと思いました。また、グループ討議の際も話題となったため。
・たくさんの方の前で話すことについてもう少し詳しく知りたいです。また、配布資料やチラシの効果的な作成方法(人の心理的な観点からなど)の講座もありましたら嬉しいです。
・交通指導を行う各教室での指導する内容について教えていただける講座があれば受講したいと思う。(幼児から高齢者まで)
・各都道府県での自転車に対する啓発活動や自転車教室の内容などわかればありがたいです。
・教室で使う教材の作り方、または購入先。(こんなところで購入できるよ…など)
・お手紙(おたより)、パワーポイント等で使えるイラストの提供先。
・幼児教育時における教材の製作の仕方。
・指導員のスキルアップの方法や表現方法を、学術的ではなく、具体的に学べる実践的なワークショップのようなもの。交通安全指導は地域によってバラつきがあり、横

断歩道の渡り方ひとつとっても、注意すべきポイントが違う。特に理由がなくこれまでの慣習で、前任者がやっていたことを踏襲しているだけのような気がする。それが間違っているとは思わないが、指導について統一見解のようなものがあれば聞いてみたい。
・改正案があれば講義してください。
・外国人(在住、観光客)に対する交通安全教育について。
・具体的な教室の進め方、幼児教室、自転車教室。(小学生対象)(晴天時・雨天時)
・交通指導員の補助について。高齢でやる人が多い。
・コロナ禍で教室をする場合の代替教材はどんな物を用意しているか。
・交通安全教育は何をソースにしてテーマを決めて教育しているか。
・高校生以上の方へ向けた効果的な啓発や講習のやり方について学べると嬉しいです。
・実技指導方法等。(例:自転車の乗り方、チャイルドシート等)
・高齢者に対する交通安全教育、具体的な指導方法、デモンストレーション等。(いきいき運転講座は非常に効果的であり、過去にも受講し活用中のため、他の教育方法も知りたい)
・交通教室は地域ごとにやり方が様々だとグループ討議で思いました。室内のみ、屋外でも行うその他色々ありました。みなさんの事例をたくさん見てみたいと思いました。
・新しいモビリティに関する動向や交通安全について。(電動キックボードなど)
・交通安全に関する時事的な問題について。
・シートベルト、チャイルドシートの必要性。私の家では、英語教室をしていますが、保護者が子供にシートベルトをさせていない。チャイルドシートに乗せていない方が多いので、いつも疑問に思っています。アメリカは10歳くらいまでチャイルドシート(ブースター)に座らせています。
・幼保・小学校の教室で、効果的に指導するための教材の作り方。
・講座内で、着ぐるみの人形とのかけあいがあり、教室での参考になりましたが、幼児への教室に行く導入の例や色々教えていただければと思います。
・自分に自信を持つには。メンタルトレーニング。
・横断歩道について。(歩行者優先の程度等)

14. 講座の実施にあたり、運営やスタッフの対応等にご意見がございましたらご記入ください。

・大変お世話になりました。有難うございました。

<p>・オンラインの為、色々と大変な苦勞をされたと思います。お陰様で、快適に受講することができました。本当にありがとうございました。</p>
<p>・グループ毎に誘導してくださる時も細かく案内があったので分かりやすくスムーズにできて良かったです。</p>
<p>・リモート開催という条件の厳しい中、手際よい運営、受講者に対してもきめ細かい配慮をいただきありがとうございました。</p>
<p>・運営がとてもスムーズで、説明が分かりやすく声も聞きやすかったです。</p>
<p>・3日間ありがとうございました。どの講座も学びある3日間でした。</p>
<p>・先生によってスピーカーの音量をMAXにしても聞きづらい場合があった。イヤホンの使用によって改善したが、事務局の方の声はとてもクリアに聞こえていたので設備的なものだったのでしょうか...また、グループ討議の際、途中で事務局の方が入室されたが、初めに入室していただき、少し声かけしてくださると、スムーズにグループで活動が始められたと思う。</p>
<p>・時間通りスムーズに進めていただきありがとうございました。</p>
<p>・接続テストの際から丁寧に教えてくださりありがとうございました。初めてのオンライン講習でしたので、不安でしたが、無事に修了することができ良かったです。3日間ありがとうございました。</p>
<p>・ありがとうございました。これからの交通指導に活用させていただきます。</p>
<p>・この状況の中、開催にあたり、準備に大変ご苦勞様されたと思います。3日間スムーズに受講することができました。ありがとうございました。</p>
<p>・本当にありがとうございました。</p>
<p>・今回は大変ありがとうございました。手際よく、いつも落ち着いてご対応されており、とても感心しました。感謝申し上げます。</p>
<p>・細かく指示を出していただいて、迷うこともなくスムーズに受講することができました。</p>
<p>・事前準備からスムーズな運営をしていただきありがとうございました。初めてのZoomでの講座参加でしたが、事前配布資料や当日の流れの説明等分かりやすく、ストレスフリーでのぞめました。来年度もぜひよろしく願いいたします。</p>
<p>・スタッフの皆様方、分かりやすい言葉遣いでとても良かったです。ありがとうございました。</p>
<p>・特に困ることはありませんでした。</p>
<p>・リモートで行う研修は初めてでしたが、操作にとまどうこともありましたが、スタッフの方の助言でスムーズに行うことができました。</p>
<p>・グループが困っている時など、素早いフォローに入っていたいただきありがたかったです。ありがとうございました。</p>

・わかりやすく誘導していただきました。ありがとうございます。(操作など)
・段取りも良く、つつがなく講座が進行したと思います。
・大変分かりやすく記載していただき良かったと思います。
・丁寧に対応していただき、とても助かりました。ありがとうございました。
・丁寧に教えてくださり、ありがとうございました。
・Zoomでのミーティングは初めてでしたが、問題なく参加することができました。段取りもよく、慣れないオンラインミーティングにもストレスが全く無かったです。ありがとうございます。
・Web会議システムを活用したオンライン開催に不慣れで不安でしたが、運営スタッフの皆様に丁寧に対応していただき、スムーズに参加することができたこと、大変感謝しております。
・グループ討議テーマの細分化。同じグループでも参加者ごとに問題点が違い、まとめにくかった。
・一日目のグループ討議中、終了時刻ということで強制退室となってしまったのは少し悲しく感じました。(リモートなのでしょうがないですが)また、三日目全講座終了後に全員で顔出し出して挨拶(サヨナラ〜と)してもよかったのでは?と思いました。その他運営に関してはとても良かったと思います。ありがとうございました。
・運営ありがとうございました。グループ討議では、なかなか司会・発表者が決まらずに申し訳ございませんでした。
・全国的に参加できるオンライン講座はとても良いと思います。また是非開催していただければと思います。
・スムーズで分かりやすい進行でした。
・滞りなく進行されて良かった。
・とても丁寧で大変良かった。
・スタッフの方が一生懸命に対応している姿が良く分かりました。
・事務局が一人ずつ各グループに入り、進行していただきたい。
・講座初日にこちらの声が届かず(グループ討議時)ご迷惑をおかけしましたが、丁寧に対応していただきありがとうございました。
・各グループ毎に分かれた時、やはり、はじめの司会をしていただけると、始まりがスムーズにいくのではないかと思います。
・オンラインという特殊な環境の中、尽力していただきありがとうございます。

15. その他、講座全般にかかわるご意見・ご感想・ご要望等がございましたらご記入ください。

<p>・各講座のレジュメにつきまして、電子データにてご提供いただきますと幸いです。 (後任者への引継ぎ資料として、データでも残しておきたいため)</p>
<p>・私は1年目ですが、もっと早くにうけたかったと感じました。とても良い内容なので、多くの人に受けてもらえるように動画視聴など、間口を広げてもらいたいと思います。</p>
<p>・交通安全指導に関する様々な話を聞いて良かったです。</p>
<p>・グループ討議、大変参考になりました。</p>
<p>・Zoomを初めて使用するため、マニュアルがあり大変助かりました。3日間の講座ありがとうございました。</p>
<p>・今回の講座を受講したことで、これまで以上に交通安全意識が高まり、全国の交通安全に携わる方々の身近な意見交換ができ、とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。</p>
<p>・普段の業務では関わることのない方と、グループ討議で意見交換をしたり、講座を聞くことでとても勉強になりました。とても実のある時間となりました。ありがとうございました。</p>
<p>・とても勉強になった3日間でした。ありがとうございました。オンライン講座に不慣れな為、事前のオンラインテストの時にZoomの使用マニュアルが手元にあればなと思いました。先生方の講義は本当にとても参考になり、グループでの話し合いも良い経験になりました。ぜひ次回は直接お会いできたらと思います。</p>
<p>・今回はコロナの為、オンライン講習という形で、自分は初めてのオンライン講習だったので不安だったが、無事3日間できて良かったです。いろいろな講師の先生の話聞いて、いろいろ自分のためになるので良かったです。また、グループ討議では、他の地域と話すことによって、教材や教室のやり方を知ることができ、自分の所の参考にしていきたいと思いました。</p>
<p>・交通事故をなくすためには、幼いころからの安全教育がとても大切だと分かりました。その安全教育を守るために、地域の協力や、保護者の理解など、これからの交通安全教育の啓発活動に活かしたいと考えました。</p>
<p>・指導者側はこのような機会がないと、技能向上を図ることが持てないので、貴重な時間となりました。今回得たたくさんの講話や討議は参考にし、生かしていきたいと思いました。しかしながら、「親は子の鏡」。大人の反省する部分であったり、認識不足が子供達の安全教育の無駄にならないよう、大人達にアプローチしていかなければならない現状が残念です。一人一人が命を大切にするために、ルールやマナーがあるんだということを教室を通して伝えていきたいと思います。</p>
<p>・分かりやすく話を聞くことができた。</p>

<p>・3日間ありがとうございました。交通指導に携わっている他府県の様子を知り、とてもありがたかったです。今後の交通指導に、少しでも役立てたらと考えてます。</p>
<p>・とても勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・本来なら地域の交通安全指導員が参加し、今後の業務に役立ててもらう方が良いと思う。県としての立場では、グループ討議の際、実際の実践内容について詳しく話せない部分もあった。来年度は地域の交通安全指導員に参加してもらえるように働きかけたい。</p>
<p>・ディスカッションについて、司会者と発表者を決めるのに苦慮したので、事務局の独断により決めたほうがいいのか。</p>
<p>・幅広い内容で参考になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・初めて参加させていただきましたが、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。常に新しいルールや情報等を仕入れなくてはいけないので、道交法の改正や今回のような自転車ルールの改正などがあつた際に、半日・1日で構わないので正しい情報の講座を開催してほしいと思います。</p>
<p>・3日間ありがとうございました。コロナ禍でなかなか研修会にも参加できず、久しぶりに講座に参加できて良かったです。今回受講した内容を今後の教室に取り入れていきたいと思っています。</p>
<p>・グループ討議の時間を多くとっていただきたいと思いました。他市さんの事例等をもっと知りたかったなと思いました。本市のTwitterや活動内容も他市さんに知っていただきたいかったです。</p>
<p>・3日間の講座で多くのことを学ぶことができました。今回学んだ事を活かし、交通事故防止に努めたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・初めての受講でしたが、全ての講義が大変分かりやすく学ぶことができました。</p>
<p>・自分にとっては大変難しい研修でしたが、無事終えることができました。3日間ありがとうございました。</p>
<p>・とても参考になる講座が多く、受講できて本当によかったです。オンラインで伝えたことで、身体的な負担が少なく助かりました。(移動時間等)</p>
<p>・知らないことが多く、学びの多い講座でした。今後の活動に活かせるようなものがたくさんありました。参加者同士の交流がほぼなかったのだけが残念でした。参加者のスキルアップに必ず繋がる講座だと思うので、今後も続けていきたいと思っています。</p>
<p>・参加人数が多く、難しいとは思いますが、グループワークの人数をもう少し減らすともっと話しやすかったかなと感じました。自分の交通安全教室がワンパターンなので、他の市のやり方やアイデアを学べる良い機会になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・大変満足しています。(感謝です)</p>
<p>・デモンストレーションの腹話術は良いと思うのですが、意味がないような気がします。</p>

<p>・他県の交通安全活動や考えを知る機会はありませんので、全国から集まり、皆で話し合える講座はとても良いと思いました。講義も参考になるものが多く、自分自身の能力・技術向上につながったと思います。</p>
<p>・大人数のオンライン会議運営、とても大変だったと思いますが、トラブルもなく楽しく勉強させていただきありがとうございます。県によって、仕事の背景などが少しずつ違っていることが確認できましたが、良いところは真似していきたいと思いました。</p>
<p>・とにかく勉強になった。</p>
<p>・自分の知らないことが非常に多く、色々な事を勉強できました。講師の方々も皆様プロフェッショナルで感動しました。</p>
<p>・全国で同じように頑張っている方々と情報交換できてとても勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・全ての講座、非常に勉強になりましたし、講師の方々がとても良くて話がスーッと心にしみてきました。このような貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございました。</p>
<p>・とても勉強になりました。</p>
<p>・ありがとうございました。</p>
<p>・今回、警察官として参加させていただきましたが、皆様に限られた制約の中で、各県独自で色々な対策を講じており、とても感銘を受けました。今後は、このような対策を警察活動に活かし、市町村と連携をとり交通事故のない明るい街づくりに邁進して参ります。</p>
<p>・中土先生のお話には衝撃を受けました。他の講師の方のお話も楽しく聞くことができたので助かりました。(飽きませんでした)</p>
<p>・修了証の交付ではなく外から見えるバッジかワッペンのような物にしてほしい。</p>
<p>・交通安全教育指導員として、3年を向かえました。今回初めて養成講座に参加しました。各県の指導内容、考え方、問題点等が直に聞くことができた事、また、講師の先生方の講座内容もとても勉強になりました。一つ残念だったのが、事例発表を聞くことができなかった事です。今回の講座で学んだ事を、今後の指導に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・高齢者、自転車、幼児(子供)、事故被害者支援、話し方など、講義内容も様々で、どれも今後の教室などの活動に活かしていければと思います。初めてのZoomでしたが、3日間ありがとうございました。</p>
<p>・もし可能であれば、グループ討議の結果記入した用紙(全部)コピーして送っていただけたらありがたいです。せっかくグループに分かれていたのですが、他の方々が行っている交通安全教室の「おすすめ」など聞く時間があつたら良かったです。(いくつ</p>

かは聞くことができましたが)大変有意義な 3 日間でした。先生方、スタッフの皆様ありがとうございました。幼 A の皆様ありがとうございました。